

多職種研修コーディネーター 育成事業

活動報告書



WAM助成

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

平成30年3月

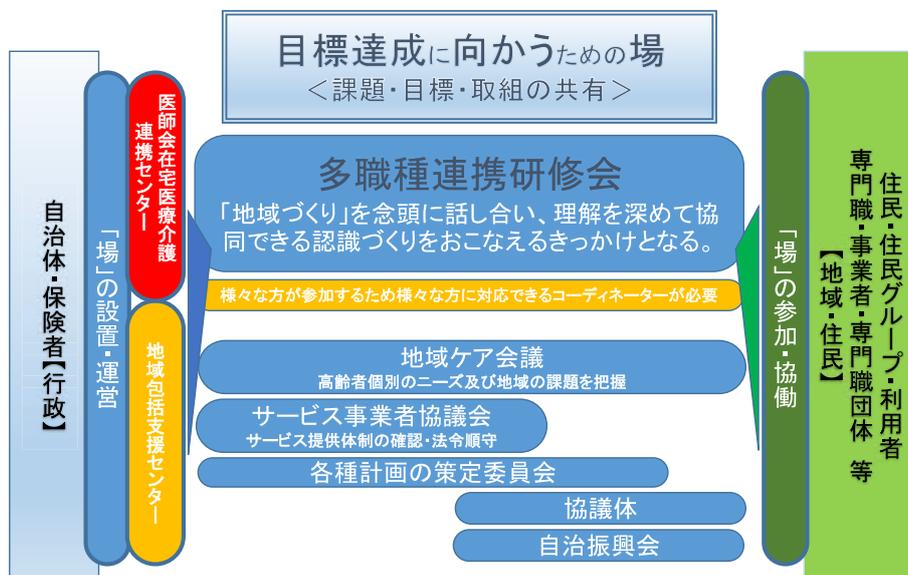
公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会

多職種研修コーディネーター育成検討委員会

はじめに

全国国民健康保険診療施設協議会(国診協)およびそれを構成する国保直診施設は「地域包括ケアの実践」を旗印に、中山間島嶼部といった比較的保健・医療・介護・福祉資源の乏しい地域において、その地域にある様々な資源をつなぎ合わせて、その地域に適した地域包括ケアを展開すべくその中心的機関として長年取り組んできました。こうしたなか様々な場において、様々な職種や資源が有機的に連携し地域の課題抽出や課題解決に取り組む経験を積み重ね、そうした活動の一つとしてすでに「小規模自治体向け多職種研修プログラム」を作成し公開しています。

多職種連携は、下図に示すようにその研修会を行うことが目的ではなく、地域の課題に対して、公・民のそれぞれの立場で活動する様々な個人や組織が、様々な場面で臨機応変につながり、協働して解決に取り組むための連携のプラットフォームにおいて協力連携体制、ネットワークを形成していくためのツールであり、かつ、こうした活動の根幹をなす重要な因子です。こういった多職種連携が全国各地で充実するために、当会が作成したプログラムをもとにした多職種研修会を運営する人材育成とその支援体制構築を目的に、独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業の助成をいただいて全国8か所(本会ブロック協議会単位)で多職種研修コーディネーター研修会を実施し、あわせて全国8か所(本会ブロック協議会単位)に各支援拠点施設の整備をおこないました。



出典:平成28年度厚生労働省老人保健健康増進等事業、三菱UFJリサーチ&コンサルティング「<地域包括ケア研究会>—2040年に向けた挑戦—」(地域包括ケアシステム構築に向けた制度及びサービスのあり方に関する研究事業)、2017年を一部改編
図中で行政が「場」の設置・運営と地域・住民が「場」の参加・協働とあるが、こうした役割は固定したものではなく、「場」によってその役割が変化することに注意が必要。

多職種研修コーディネーター研修会は、多くの参加者から高い評価を受け各地域の多職種研修会へのつながりを見せ、支援拠点施設整備では、全国に存在する当会構成直診施設のネットワークを活用し、(ブロック)支援拠点

施設に加え(都道府県)連携拠点施設の整備にも取り組み今後の支援体制が構築できました。本活動報告書を一読いただき、各地域での多職種連携構築への取り組みが、単に各地域の努力だけではなく、その研修会運営のノウハウを獲得し支援体制のもとで取り組んでいくことができるという安心感につながり、多くの地域の地域課題の解決の一助につながればと期待しております。

最後に、本事業実施にご協力いただいた、また今後とも協力いただく国保直診施設スタッフに深く感謝するとともに、事業を推進するにあたり、吉村学宮崎大学教授、津野陽子東北大学大学院講師をはじめとした実行委員会の方々のご努力に深く感謝の意を表します。

INDEX

- 第1章 事業の概要
- 第2章 多職種研修コーディネーター研修会の開催
- 第3章 多職種研修支援体制「(ブロック)支援拠点施設」の整備
- 第4章 多職種研修運営ガイドに沿った「コーディネーター支援マニュアル」の作成
- 第5章 活動効果・普及啓発

1 背景と目的

本事業は、独立行政法人福祉医療機構の平成29年度「社会福祉振興助成事業」の採択を受けて実施したものです。

保健・医療・介護・福祉の連携は地域包括ケアシステム構築の基盤となるものです。この連携構築においては多職種研修（医療・介護関係者の研修）が各所で行われておりますが、講義あるいはグループワークなどが単発的に行われるとともに、その主目的として顔の見える関係構築にのみ力点が置かれている状況は否めません。

平成27年（2015年）2月に発表された医療保健福祉分野の多職種連携コンピテンシー Interprofessional Competency in Japan（主催：多職種連携コンピテンシー開発チーム）は各専門職個人が多職種連携を取りながら業務を実践できる能力を示したもので、「患者・利用者・家族・コミュニティ中心」「職種間コミュニケーション」の2つのコアドメインとそれを支える「職種役割を全うする」「関係性に働きかける」「自職種を省みる」「他職種を理解する」の4つのドメインが示されています。

一方、現在多職種連携に関する研修プログラムとしては医師の在宅への積極的参加に主眼に置いたプログラムや、事例検討のやり方に主眼を置いたプログラムが散在しており、上述のコンピテンシーを達成できるようなプログラムはいまだ十分とは言えない状況にあります。さらに、特に介護・福祉人材育成を多職種連携研修によって行う際には、医療職との連携において負担感を感じることも多く、これらの課題に加え、多職種連携研修を開催するにあたりその運営ノウハウを学ぶ機会も少なく、運営コーディネーター向けの研修プログラムも求められています。

このようなことから、本事業では国診協が作成した小規模自治体向け多職種研修プログラムを、多職種連携コンピテンシー達成の手段の一つとして位置づけ、小規模自治体に限らず利用していただくために、全国8か所（本会ブロック協議会単位）で多職種研修コーディネーター研修会を実施し、あわせて事業の効率かつ円滑なさらには継続的な実施体制を確保するため、全国8か所（本会ブロック協議会単位）に各支援拠点施設の整備をおこなうこととしました。

2 実施内容

本会では、本事業を企画・運営するにあたり「多職種研修コーディネーター育成検討委員会」を設置しました。そして次の3つの取組みを行いました。

I 多職種研修コーディネーター研修会の開催

国診協版「多職種研修運営ガイド・プログラム」の普及のため、全国8か所（ブロック協議会単位）にて多職種研修プログラムを運用するためのコーディネーター育成を目的とした「多職種研修コーディネーター研修会」を開催しました。

II 多職種研修開催支援拠点施設の整備

継続的支援体制を確保するため、全国8か所（ブロック協議会単位）に「（ブロック）支援拠点施設」を指定

し、多職種研修の企画・運営支援及び多職種研修コーディネーターの育成支援の体制を整備しました。

Ⅲモデル事業(モデル実施評価)

支援体制のモデル構築において「(ブロック)支援拠点施設」では、実際に支援活動を行い、多職種研修プログラムや多職種研修コーディネーター研修会開催の効果等に関する評価を行う。そこで支援方法等のあり方等の整備を行いました。

また、検討委員会では、(ブロック)支援拠点施設で上記の活動を行う中で、事業の成果をより効率かつ効果的にすすめるため、都道府県単位の「(都道府県)連携拠点施設」の設置を目指すことしました。

3 実施体制

○多職種研修コーディネーター育成検討委員会 委員構成

事業実施責任者 金丸 吉昌 国診協副会長

／宮崎県・美郷町地域包括医療局総院長

*委員長 後藤 忠雄 岐阜県:県北西部地域医療センター長・国保白鳥病院長

委員 靱井 眞二 副会長／大分県:国東市民病院長

*委員 吉村 学 宮崎大学医学部地域医療学講座教授

*委員 津野 陽子 東北大学大学院医学系研究科保健学専攻講師

／東京大学政策ビジョン研究センター非常勤講師

委員 飯山 明美 北海道:本別町地域包括支援センター所長

委員 小野 剛 秋田県:市立大森病院長

委員 三枝 智宏 静岡県:浜松市国保佐久間病院長

委員 家守 秀知 滋賀県:高島市民病院リハビリテーション室言語聴覚士

委員 三上 隆浩 島根県:飯南町立飯南病院副院長

委員 中津 守人 香川県:三豊総合病院副院長

*委員 山内 香織 広島県:公立みつぎ総合病院副看護部長(地域包括支援センター)

*委員 竹内 嘉伸 富山県:南砺市地域包括支援センター副主幹

*委員 北谷 正浩 石川県:公立羽咋病院リハビリテーション科士長

*印…「研修会運営チーム」研修担当委員

事業協力・支援

モデル連携団体(ブロック支援拠点施設)

オブザーバー

塩崎 敬之 厚生労働省老健局老人保健課主査

松本 佳子 東京大学医学部在宅医療学拠点特任研究員

事務局

公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会

【委員会等開催実績】

平成29年

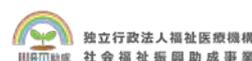
- 6月4日(日) 研修運営チーム(研修担当委員)による事前検討会
- 6月13日(火) 第1回多職種研修コーディネーター育成検討委員会
※同委員会メーリングリスト開設
- 8月20日(日) 「研修会開催」in港区:東京都(関東甲信静ブロック)
- 同日 研修運営チーム(研修担当委員)による検討会
- 9月3日(日) 「研修会開催」in金沢:石川県(東海北陸ブロック)
- 同日 研修運営チーム(研修担当委員)による検討会
- 9月9日(土) 「研修会開催」in大津:滋賀県(近畿ブロック)
- 同日 研修運営チーム(研修担当委員)による検討会
- 10月7日(土) 「研修会開催」in高松:香川県(四国ブロック)
- 同日 研修運営チーム(研修担当委員)による検討会
- 10月14日(土) 「研修会開催」in仙台:宮城県(東北ブロック)
- 同日 研修運営チーム(研修担当委員)による検討会
- 10月15日(日) 「研修会開催」in札幌:北海道(北海道ブロック)
- 同日 研修運営チーム(研修担当委員)による検討会
- 11月3日(金・祝) 「研修会開催」in熊本:熊本県(九州ブロック)
- 同日 研修運営チーム(研修担当委員)による検討会
- 11月12日(日) 「研修会開催」in松江:島根県(中国ブロック)
- 同日 研修運営チーム(研修担当委員)による検討会

平成30年

- 2月27日(火) 第2回多職種研修コーディネーター育成検討委員会

※研修会開催地での研修運営チームによる検討会では、研修会終了後に、①(ブロック)支援拠点施設との打合せ、②(都道府県)連携拠点施設との打合せ、③研修内容の評価及び調整等を行っております。

目標設定確認シート



1.単年度の課題	2.事業内容	3.実施目標	4.期待される効果	5.中期的な展望
在宅医療介護連携の推進を目的とした「多職種研修」を全国の自治体で運営できるよう、本会が作成した「多職種研修運営ガイドプログラム」を積極的に導入し、効果的な運営ができるコーディネーターを育成する。 全国8ブロックにて育成研修会を開催するとともに、支援可能な拠点施設(連携団体)を整備し、研修会に参加できない地域や研修の実施に関して課題を抱えている地域を積極的に支援を行い、多職種研修の普及推進を図る。	単年度の課題解決に向け、検討委員会を設置し、次の事業を展開する。 Ⅰ 多職種研修コーディネーター研修会の開催 Ⅱ 多職種研修開催支援拠点の整備 Ⅲ モデル事業(モデル実施評価) ※活動報告書作成	事業展開により、次の目標達成を目指す。 ○多職種研修コーディネーター研修会の参加自治体については、平成29年度内に実施率を100%とする。 ○多職種研修コーディネーター研修会の参加者への満足度調査を行い、10段階評価で8以上の評価が得られるプログラム内容にまとめる。 ○多職種研修コーディネーター研修会に参加できない自治体で、運営支援の要望・相談があった場合は、連携団体において積極的にサポートを行う(2か所以上の支援実績をつくる)。	事業展開により、次の効果が期待される。 ○研修会参加者の満足度による効果確認により多職種研修運営ガイドプログラムの活用精度が高まる。 ○多職種研修コーディネーターを育成することにより、研修会が取組みやすくなり、地域の実情に応じた研修会の開催につなげることができる。 ○拠点施設をブロック単位で整備することにより、課題解決に向けた自治体への常時支援が可能となる。 ○今まで、多職種研修が行われていなかった自治体、効果を上げられなかった自治体での効果的な研修会実施が可能となる	助成事業終了後も継続的な展開・効果を確保する。 多職種研修コーディネーターの育成及び育成プログラムの普及並びに多職種研修運営ガイドプログラムの普及によりさらなる事業の継続的な展開が可能となる。ブロックでの拠点整備を行うことで、持続可能な支援体制が確保され、地域の実情に応じた支援が可能になるとともに、多職種研修の目的でもある在宅医療介護連携の推進が図られる。医療介護に関わる多職種間でのコミュニケーションが醸成され地域での望ましい在宅医療・介護の基盤整備がより一層高まる。

1 開催内容

国診協版「多職種研修運営ガイド・プログラム」の普及のために、全国8か所(本会ブロック協議会単位)で多職種研修プログラムを運用するためのコーディネーター研修会を実施しました。

①実施対象

全市区町村「医療介護連携推進担当者」等

1地域3名程度の参加を推奨(①行政のご担当者様、②医療関係者(医師会ご担当者等)、③地域の医療介護連携における中心となる方(地域包括支援センター等))。なお、少人数での参加も可としました。

②実施内容

自治体研修担当者を対象とした研修会とし、実際に多職種研修の模擬体験(研修運営・プログラムの説明等)、自地域での研修企画・運営における手法、簡易地域診断を用いた課題等の検討を行いました。

③研修効果・評価:

参加者アンケート/RIPLS(readiness for interprofessional learning scale)による効果判定(研修会前後)を行いました。

④多職種研修コーディネーターの受講証明

本研修会の全課程を修了された方には、「修了証」を発行しました。

(修了証見本)



(1) 研修プログラム

多職種研修会を企画・運営できる人材の育成を目的に、実際に多職種研修の模擬体験を行うとともに、研修の企画運営の手法の習得、簡易地域診断を用いた多職種連携に関する地域課題の抽出及び課題解決に向けた研修の企画の検討を行いました。

研修会の運営は、検討委員会内の「研修会運営チーム」研修担当委員にて行いました。

研修プログラム・タイムスケジュール

構成	内容	座席
開会前	■ 事前アンケート記入のお願い	
開会		
10:00-10:05	○開会のあいさつ	チーム
多職種研修実施にあたって		
10:05-10:25	○コーディネーター研修を始めるにあたって ■ 多職種研修運営ガイド・研修プログラムの解説 ■ 多職種連携・多職種研修運営の検討（課題抽出）	チーム
10:25-10:30	席替え	
【第1部】まずは体験！多職種研修		
10:30-12:00	■ 自己紹介／アイスブレイク／ロールプレイ	グループ
昼食（60分）12:00～13:00		
【第2部】ベテランに学ぶ研修の「コツ」と「ポイント」		
13:00-14:00	○研修開催のコツについての解説	グループ
14:00-14:15	席替え・休憩	
【第3部】「自分たちの地域でどうするか」を考える！		
14:15-15:45	○研修会の開催方法の検討 ■ 本事業における地域診断の方法について説明 ■ 地域診断による地域課題の検討 ■ 抽出した地域課題を元に、その課題の解決に向けた研修会の企画案の検討	チーム
15:45-15:55	休憩	
15:55-16:45	○発表 ■ 検討結果と今後の取組の発表	チーム
16:45-16:55	○質疑応答 ■ 検討に際しての疑問や他自治体の発表内容についての質疑応答	
開会		
16:55-17:00	修了証授与 / 集合写真撮影 / 閉会	
閉会后	■ 事後アンケート記入のお願い	

座席「チーム」は市区町村（参加申込時の構成）単位、「グループ」は個人のネームプレートに示された構成グループ

(2) 研修会開催スケジュール

研修会を全国8か所(本会ブロック協議会単位)で開催しました。

① 北海道 ブロック	北海道 in 札幌市 会場：「札幌テレビ塔」 平成 29 年 10 月 15 日（日） 10：00～17：00
② 東北 ブロック	宮城県 in 仙台市 会場：「スタンダード会議室 仙台一番町ホール店」 平成 29 年 10 月 14 日（土） 10：00～17：00
③ 関東甲信静 ブロック	東京都 in 港区 会場：「メルパルク東京」 平成 29 年 08 月 20 日（日） 10：00～17：00
④ 東海北陸 ブロック	石川県 in 金沢市 会場：「フレンドパーク石川（石川県勤労者福祉会館）」 平成 29 年 09 月 03 日（日） 10：00～17：00
⑤ 近畿 ブロック	滋賀県 in 大津市 会場：「大津市勤労福祉センター」 平成 29 年 09 月 09 日（土） 10：00～17：00
⑥ 中国 ブロック	島根県 in 松江市 会場：「ろうかん（労働会館）」 平成 29 年 11 月 12 日（日） 10：00～17：00
⑦ 四国 ブロック	香川県 in 高松市 会場：「サンポートホール高松」 平成 29 年 10 月 07 日（土） 10：00～17：00
⑧ 九州 ブロック	熊本県 in 熊本市 会場：「熊本市総合体育館・青年館」 平成 29 年 11 月 03 日（金・祝） 10：00～17：00

研修会の案内(参加者募集)は、「全国の市区町村へのダイレクトメール(開催案内文書送付)」、「国診協ホームページでの開催案内」、「WAMホームページのセミナーなどの案内(掲示)」等で行いました。

(3) 研修会参加状況

		参加者数	自治体数
① 北海道ブロック	北海道札幌会場	23 人	15 団体
② 東北ブロック	宮城県仙台会場	31 人	19 団体
③ 関東甲信静ブロック	東京都港区会場	69 人	40 団体
④ 東海北陸ブロック	石川県金沢会場	41 人	15 団体
⑤ 近畿ブロック	滋賀県大津会場	45 人	18 団体
⑥ 中国ブロック	島根県松江会場	38 人	14 団体
⑦ 四国ブロック	香川県高松会場	47 人	20 団体
⑧ 九州ブロック	熊本県熊本会場	47 人	14 団体
合計		341 人	155 団体

概要説明と課題共有



アイスブレイク(体験)



ロールプレイ(体験・成果報告)



グループワーク(地域診断と研修内容の検討)



全体発表・修了証贈呈



研修会で挙げられた多職種連携研修会運営上の課題と検討委員会委員からのコメント

研修を行う目的・価値共有のコツは？

ややもすると国から示されたお題目を実施することが目的になってしまうことがあります。研修をすることによってあなたの地域に何が起きるといいでしょうか？職種間だけの連携でいいでしょうか？もう一歩進んだ連携は？総合計画や保健福祉関係の計画にあなたの自治体の目指すべき方向を示す理念が掲げられていると思いますので、一度目を通していただくとよいかもかもしれません。それにもとづいて行政担当課で目的などを明文化したものと共有もしやすいかもしれません。とはいつても、(目的にこだわりすぎずに)1回は特に第1回目は「多職種研修を楽しむ」といったことからスタートして多くの参加者でとにかく話してみるとか、とにかく回を重ねてみるとかが実は大事だと思います。

研修運営実施主体の決め方あるいは複数ある場合の連携のコツは？

研修運営実施主体がすでに複数ある時は期日やテーマの分担などの調整する場があるとよいと思います。ITなどを利用して研修会の情報共有するのもよいかもかもしれません。もし新たに開催を企画した時は具体的に研修内容を示しながら提案すると理解が得られやすいようです。積極的に他の研修会に参加すると、顔もつながりますし、研修を企画するヒントにもなります。その他、全体をまとめるには行政や医師会などが中心になるのも一つの方法です。テーマや内容によって役割分担をしたり、持ち回りにしたりといった工夫もできるかもしれません。

研修企画コアメンバー(チーム)あるいは協力者をつくるコツは？

まずは、施設内や地域内で顔が広い人に協力者になってもらうことだと思います(そういう人はたいてい協力してくれます)。その方から関心のありそうな人を数名紹介してもらうとよいかと思います。医師が1人でもいるとよいです。医師を誘うときは苦手な先生よりは、少しでも理解ある先生を巻き込むといいと思われます。コア会議にも多職種が参加していただければということありませんが、施設内であつたら日頃から多職種とうまく連携しているMSWや退院調整看護師などがねらいめかと思われます。場合によってはコアメンバーでなくてもかまわないので相談者として協力していただける人がいればより幅が広がると思われます。

テーマや内容あるいはその方略のコツは？

医療介護連携といった大きなテーマだけが前面に出ないほうが良いかと思われます。まずどの段階の連携について協議をするかコアメンバーや研修会参加者で議論することが良いと思われます。生活課題?、地域課題?、資質向上など地域の皆さんが一番興味を持っていたり、課題となっていたりするテーマが抽出されてくることを期待します。ただ、どうしても声の大きい人に引つ張られたり、そんなの興味ないので…という人が出てきたりということもあるかもしれません。グループワークの仕方や、新たな視点や発見に興味を持っていただくよう仕掛ける必要もあります)。逆に、課題と言う視点だけではなく、「こんな取り組みが」とか、「うまくいってるよ」といったことを題材にするもの一つの手だと思います。繰り返し研修会を行うことで職種による意識差に対応できるということもあるかもしれません。

なお、教育方略は「COLUMN 教育方略はじめの一步。」を参照してください。

PRのコツは？

自分自身が参加しようと思えるような文言や対応を考えてみてください。日ごろからの情報共有媒体の利用(メールなど)や紙媒体の配布、場合によっては直接持参といった配布の仕方にも工夫があるとよいと思われます。文言も情報が伝わりやすく見やすいことが重要です。半強制的に参加者を集めるという方法もないわけではありません。

開催回数検討のコツは？

年間あるいは経年的テーマを決めてそれに沿って回数を決めるとよいと思われます。しかし、必ずしも参加者が固定しているわけではないので常に初めて参加する人もいることに配慮が必要かと思われます。実施者や参加者の負担も考える必要があります。

日程、時間帯、会場、研修規模(サイズ)の設定のコツは？

なかなか解決方法がないのが現状です。やはり医師の都合優先が多いようです。医師に限らずこんな職種の方にもぜひ参加をと思うようであればそういった方への配慮はとりあえず必要かもしれません。思い切って休日利用とい

う方法も考えてみてください。既存の会議や施設内研修とのコラボレーションも考えてみるとよいかもしれません。場所は集まりやすい地理的に中心地が多いですが、施設持ち回りというのもお互いの施設見学も兼ねてよいかもしれません。サイズはコーディネーターやファシリテーターの対応状況にもよるかもしれませんが、やり方によってはどんなサイズでも可能かと思います。終了後の懇親会をセットでというパターンもよくありますが、主婦の方も多いのでスイーツの会という工夫をされているところもあるそうです。

参加者の固定・偏り対策のコツは？

医師に参加していただくハードルはどこ地域も高いようです。医師会長や医師会役員あるいは介護保険・在宅医療担当理事の方に研修会の挨拶をお願いしたり、医師会の先生へ声をかけていただくハブになっていただくをお願いすることも必要かと思えます。施設や事業所の参加を促すには、最初は各施設・事業所の中心的スタッフに参加していただき、その方にハブになっていただいて別のスタッフに参加してもらうよう呼び掛けていただくのも一つです。施設長や事業所長をお願いするのも一つの手です。参加のハードルを下げることと研修会の質の向上を図ることのバランスにも配慮が必要かと思えます。参加意欲を高めるあるいは参加して楽しかったという雰囲気づくりは大切にしてください。実施会場を持ち回りにすることが各施設からの参加者を増やすということにつながることもあるようです。病院などでは院内研修の時間を使わせていただくのもよいかもしれません。

グループワーク運営のコツは？

参加者名簿を見て、グループ編成時の各グループメンバーの偏りをなくすような配慮が必要かと思えます。日ごろ発言が多い傾向にある方や議論の迷走傾向のある方には、その方と相性の良い(抑止力の働きやすい)方をファシリテーターとして配置したり、地域性を配慮しそうした方と関係性の良いケアマネジャーや訪問看護師を席もできるだけ隣に誘導しつつ同じグループに配置することも一つの方法です。こうした要配慮者だけではなく、事前に盛り上げてくれそうな参加者が誰かを確認していくことも重要です。その他、グループワークのグラウンドルールを事前に提示説明することや、コーディネーターやファシリテーターがグループワークの最中に会場内をフリーで歩きながら「なるべく多くの方が発言してくださいね」「〇〇〇することが目的ではないですよ」など、あらかじめ発言の偏りや迷走にストップをかけるようにすることもあるようです。コーディネーターやファシリテーターは習うより慣れるというところがないわけではありません。基本的なところは本やウェブなどで学ぶにしても、毎回研修会後に運営チームで振り返りタイムを作って、うまく研鑽していくようなOJTが実は一番の近道と思われれます。

研修の振り返りや評価するコツは？

1回の研修会で多職種連携が飛躍的に向上することはないと思われれます。積み重ねをするためにも研修会後の振り返りタイムやアンケートなどがうまく利用できるとよいかと思われれます。うまくいかなかった点に注目しがちですが、うまくいった点にも大事にしてください。振り返りも必ずうまくいった点も確認することや、アンケートの1つの批判よりも多くの前向き発言を注目したほうがよいと思われれます。

研修をその後の活動につなげるコツは？

研修の際に、個人ワークでもグループワークでもいいですが、次につながる小さなこと、簡単なことを何かひとつ決めて、具体的に活動する予定をたててしまうのも一つの方法です。研修の際の「暖まった」雰囲気をその時点で次につなげる配慮となります。こうしたことをもとに年間活動報告会につなげている地域もあるようです。研修会終了時に職名、今日の感想、今後希望するテーマ等のアンケートを行い、後日あらためて各グループで出た課題や解決策、アンケートの結果のまとめを、参加の有無にかかわらず案内文書を出したすべての施設や事業所に持参、またはメール配信することで地域内での情報共有を図るという方法もあります。お互いの施設を見学したり、同行訪問研修などがより多職種連携を深めることにつながる例もあるようです。いずれにしても「やりっぱなしにしない」が大事なようです。

多職種連携あるいはその研修に住民に参加していただくコツは？

住民に参加してもらうのは言うは易し行うは難しと考えている地域も多いようです。単に参加者の一人としてだけでなく、見守り活動や在宅看取りなどの体験談を話していただいたり、地域地域で民生委員など何らかの役割を持っている方から参加をお願いしたりとさまざまな形での参加を配慮するのも必要と思われます。わずかな活動へのかかわり(例えば山に入ってしまった認知症の人の捜索に関わったとか、地区踏査をしたときに地域の案内をお願いしたとか)が参加のきっかけになるようなことも例としてはあるようです。専門職ですら参加に偏りやマンネリ化が生じる研修会です。住民の方々にとってはハードルが高いと思われます。一方で少し視点を変えて住民の方も参加しやすいように多職種研修会がまちづくりの集まりになるのもよいかと思えます。

COLUMN

教育方略ははじめの一步

研修会の教育方略は伝えたい内容とどのように伝えるかの組み合わせから考える必要があります。医学教育分野での教育方略は大きく分けて12あります。読み物、講義、ディスカッション、調べ物プロジェクト、ロールモデル、実演、シュミレーター、ロールプレイ、模擬患者、グループ学習、臨床経験、PBL(problem-based learning)です。研修会の目標として参加者のどの領域(タキシノミー:知識・問題解決・態度・技能・行動)が改善すると良いかも関係者で十分に協議することが望めます。また研修会の会場で利用可能であるか、参加者の年齢層やこれまでの経験値なども十分に考慮する必要があります。特に世代間の違いは大きく、概して年齢層が高くなるほどディスカッションやロールプレイといった双方向型の方略に対して抵抗が大きくなります。かといって講義形式だけでは眠気を誘い、退屈なものになるかもしれません。これまで開催された同様の研修会ではどの教育方略を使われて来たのかを情報収集、その評価についてもアンケート調査結果も踏まえたほうが良いです。このプロジェクトではロールプレイを推していますが、十分にアイスブレイクをすることで緊張を取り除き、声掛けも丁寧に行うことでその教育効果を発揮できるように配慮していることがわかると思います。研修会の終了後にはアンケート調査を行ってその評価をしてさらなるバージョンアップを繰り返して行く必要があります。

研修会修了者

札幌市会場



仙台市会場



東京・港区会場



金沢市会場



大津市会場



松江市会場



高松市会場



熊本市会場



3 参加者アンケートの結果

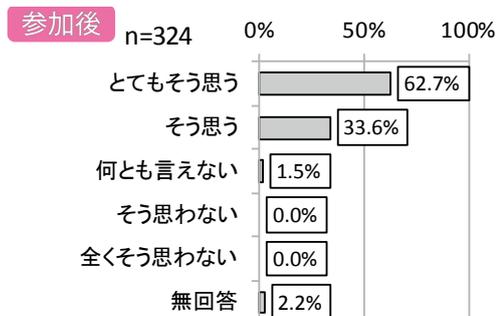
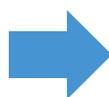
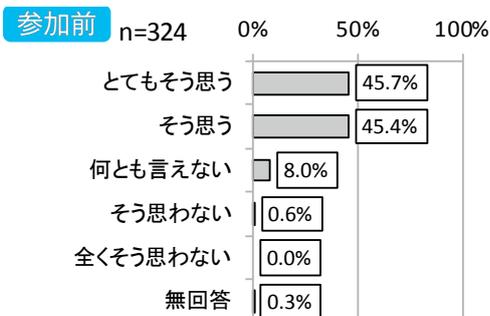
(1) 多職種連携に関する準備性 (リプルス調査)

RIPLS (readiness for interprofessional learning scale) による効果判定 (研修会前後) を実施しました。

		参加者数	回答数	回答率
① 北海道ブロック	北海道札幌会場	23 人	22	95.7%
② 東北ブロック	宮城県仙台会場	31 人	29	93.5%
③ 関東甲信静ブロック	東京都港区会場	69 人	65	94.2%
④ 東海北陸ブロック	石川県金沢会場	41 人	40	97.6%
⑤ 近畿ブロック	滋賀県大津会場	45 人	44	97.8%
⑥ 中国ブロック	島根県松江会場	38 人	36	94.7%
⑦ 四国ブロック	香川県高松会場	47 人	41	87.2%
⑧ 九州ブロック	熊本県熊本会場	47 人	47	100.0%
合計		341 人	324 人	95.0%

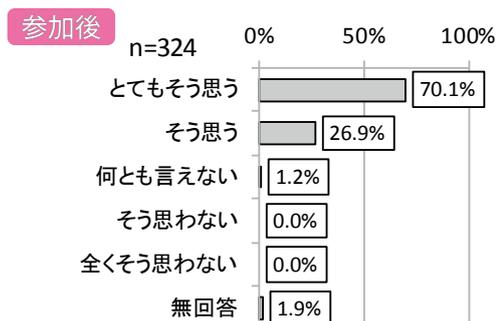
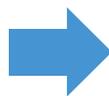
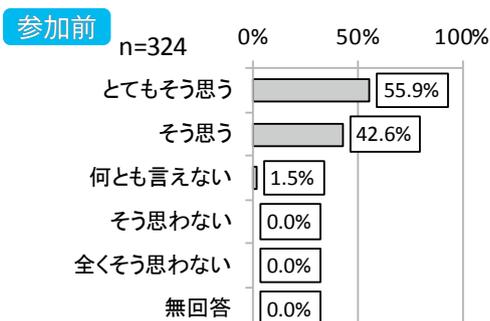
設問 | 1

他の医療職と一緒に研修することは、自分が医療・介護チームの有能な一員になるために役立つだろう。



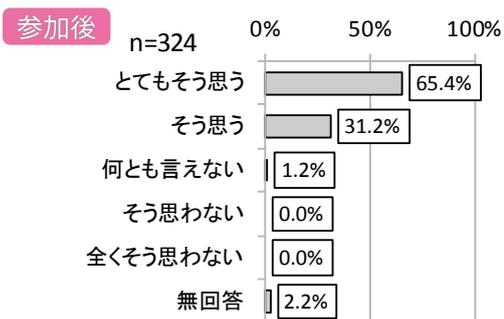
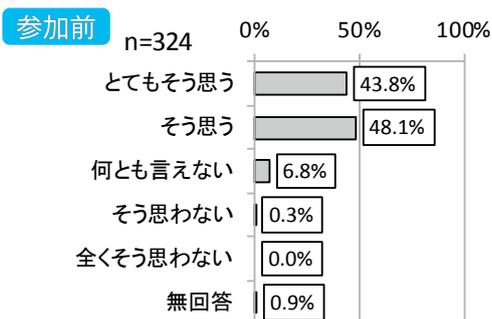
設問 | 2

多職種の医療者が協同して働くことで、患者／利用者は最終的に恩恵を得るだろう。



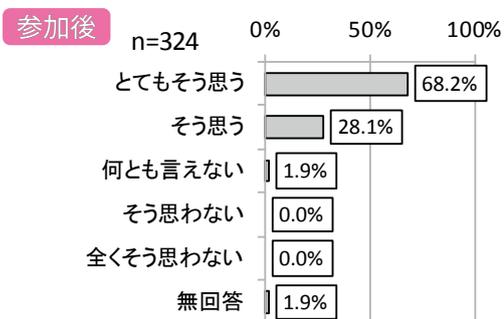
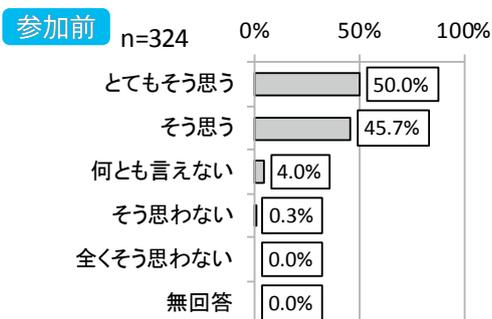
設問 | 3

他の医療職と一緒に研修することは、現場における臨床的問題を理解する能力を高めるだろう。



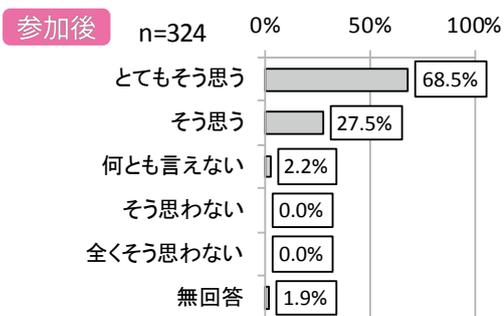
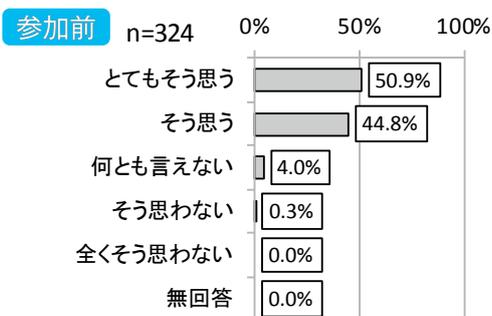
設問 | 4

他の医療職とコミュニケーションを図る方法を学んだ方がよい。



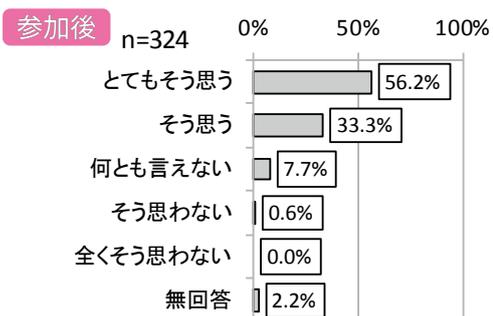
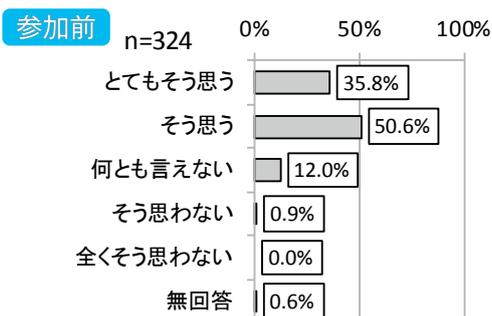
設問 | 5

チームワークのスキルは、医療・介護職が学ぶべき必須事項である。

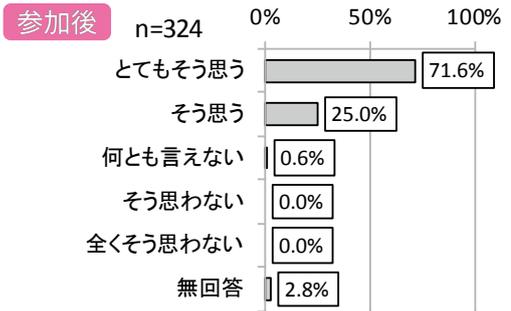
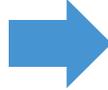
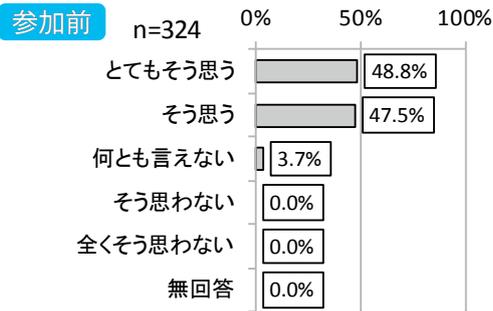


設問 | 6

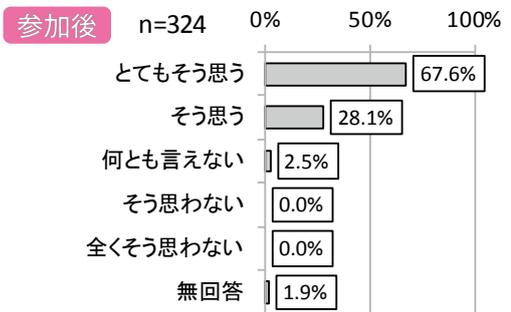
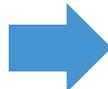
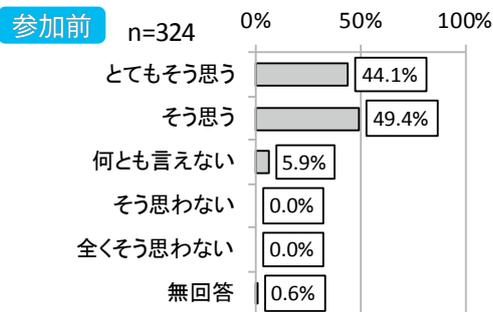
他の医療職と一緒に研修することは、自己の専門職の持つ限界を理解するのに役立つだろう。



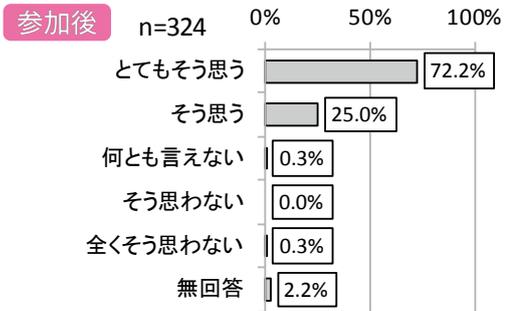
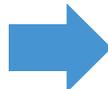
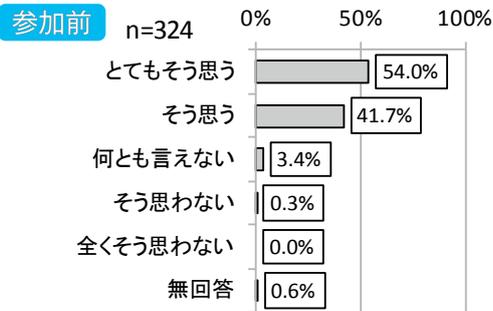
設問 7 彼の医療職と一緒に研修することは、現場での協力関係の改善に役立つだろう。



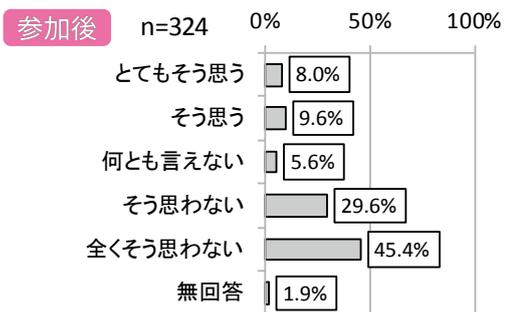
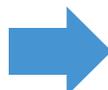
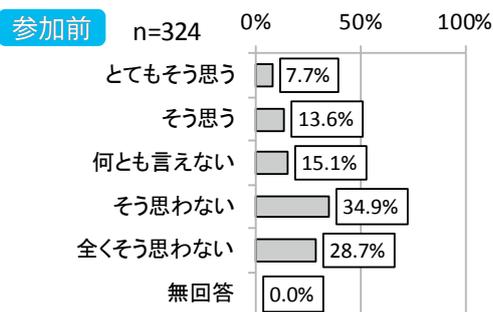
設問 8 彼の医療職と一緒に研修することは、他の専門職のことを肯定的に考えるのに役立つだろう。



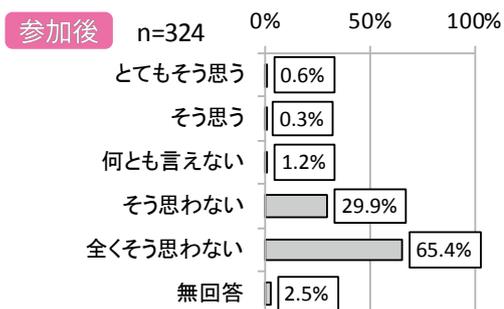
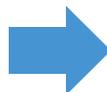
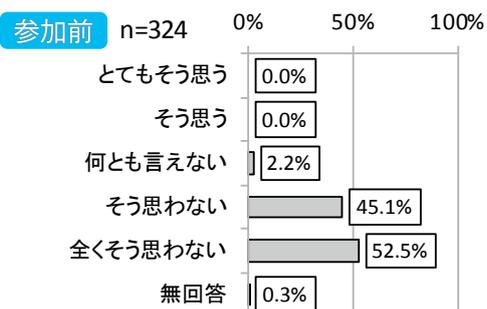
設問 9 研修会でグループ活動をする際には、参加者は互いに信頼・尊重することが必要である。



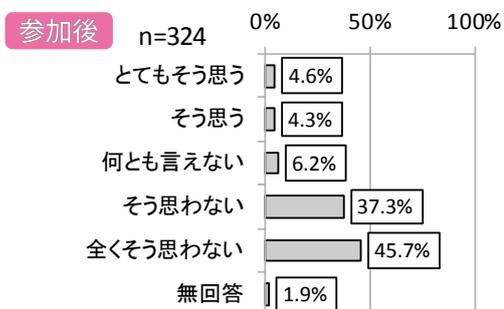
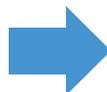
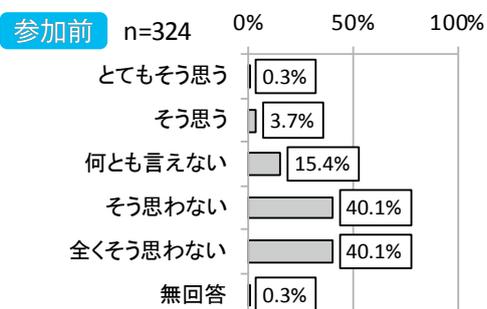
設問 10 彼の医療職と一緒に研修することで、時間を無駄にしたくない。



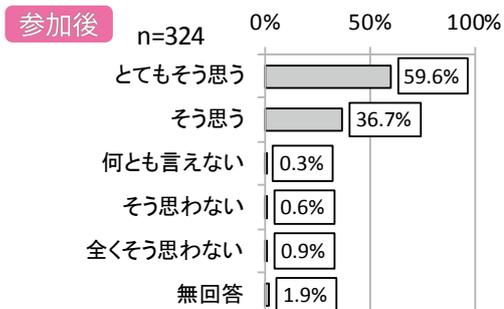
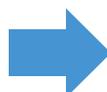
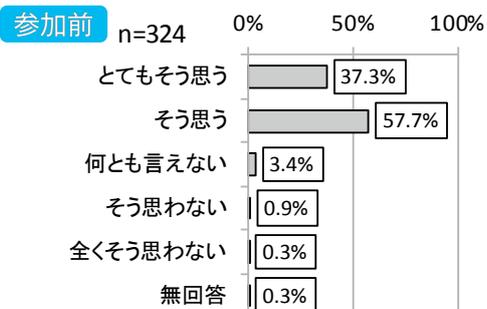
設問 | 11 彼の医療職と一緒に研修する必要はない。



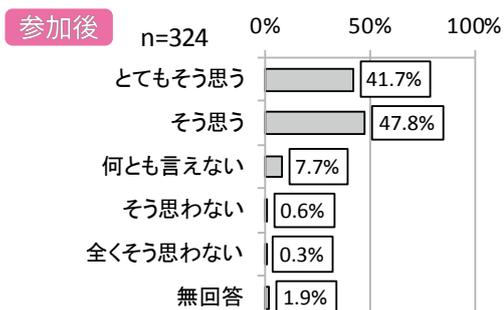
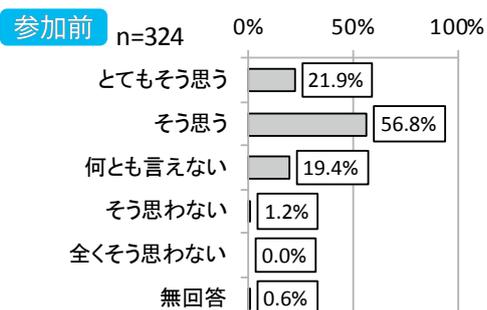
設問 | 12 臨床的な問題解決能力は、自分と同じ専門職と一緒に学習することでのみ修得できる。



設問 | 13 他の医療職と一緒に研修することは、患者／利用者や他の専門職とのコミュニケーションに役立つだろう。

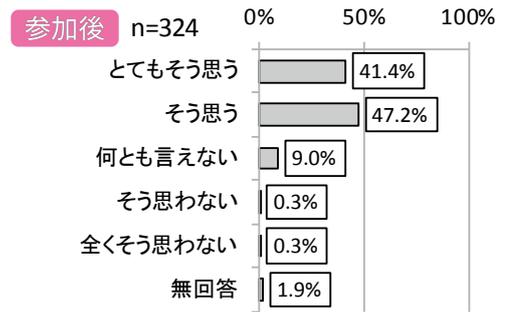
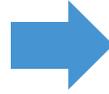
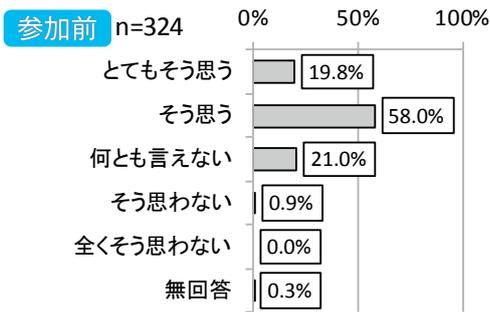


設問 | 14 私は、他の医療職と一緒にのグループで学習することに前向きだと思う。



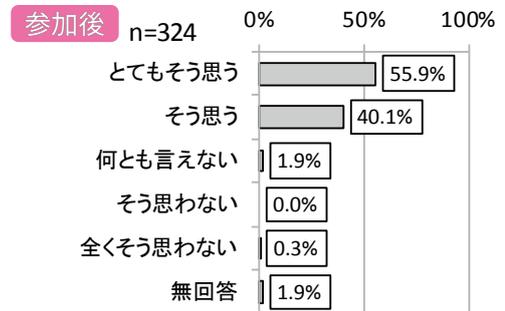
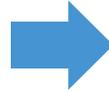
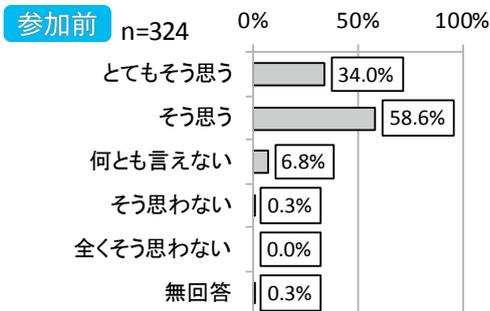
設問 | 15

私は、他の医療職と一緒に講義や課題解決学習や研修を受けることに前向きだと思う。



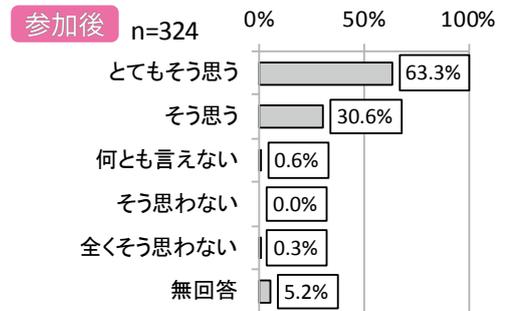
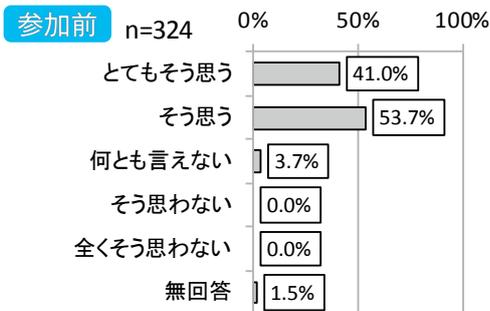
設問 | 16

他の医療職と一緒に研修したり働くことは、患者／利用者の問題の本質を明確にするのに役立つだろう。



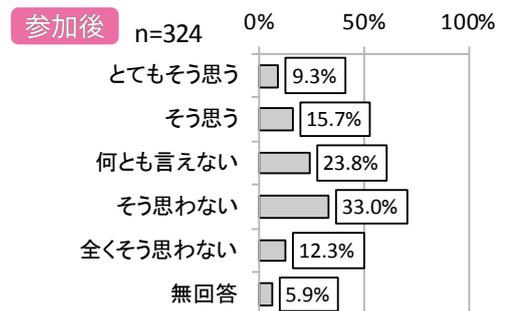
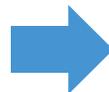
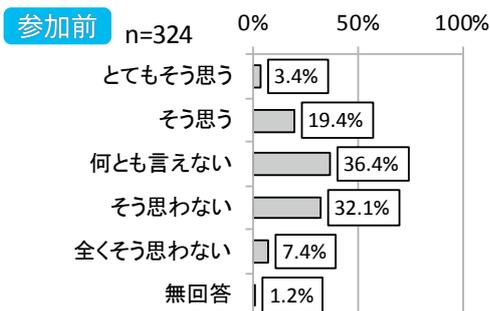
設問 | 17

他の医療職と一緒に研修することは、チームの良き一員になるために役立つだろう。



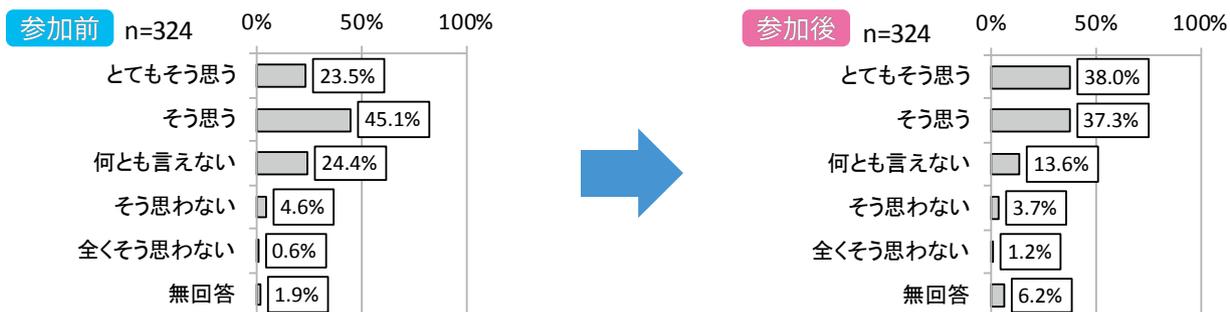
設問 | 18

私は自分の専門職としての役割について確信を持っていない。



設問 | 19

私は自分の専門に関して、他の職種の人より多くの知識やスキルを身につけなければならないと思う。

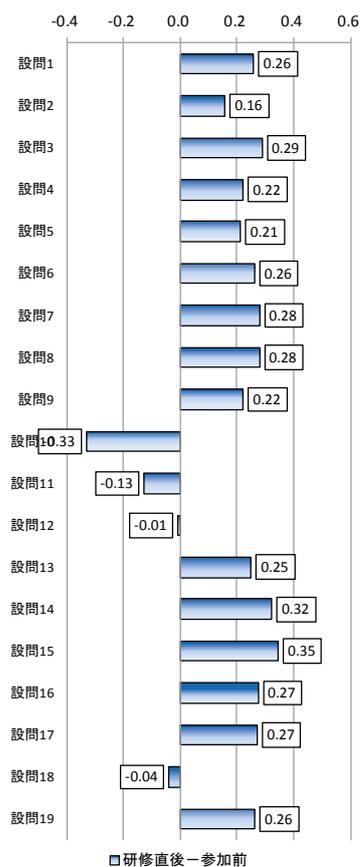
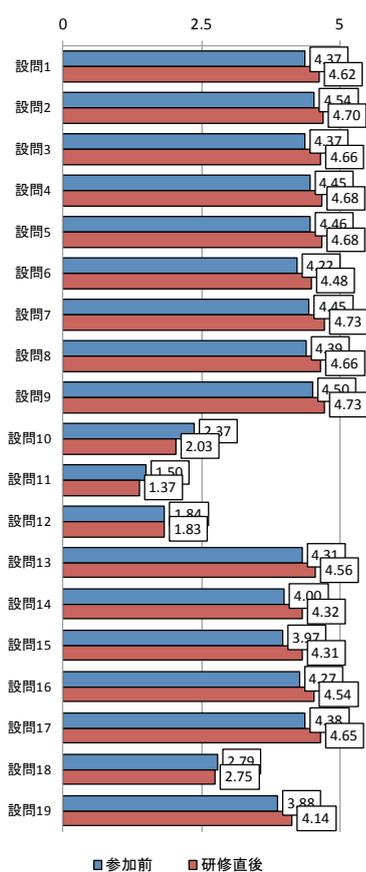


リプルス総括表

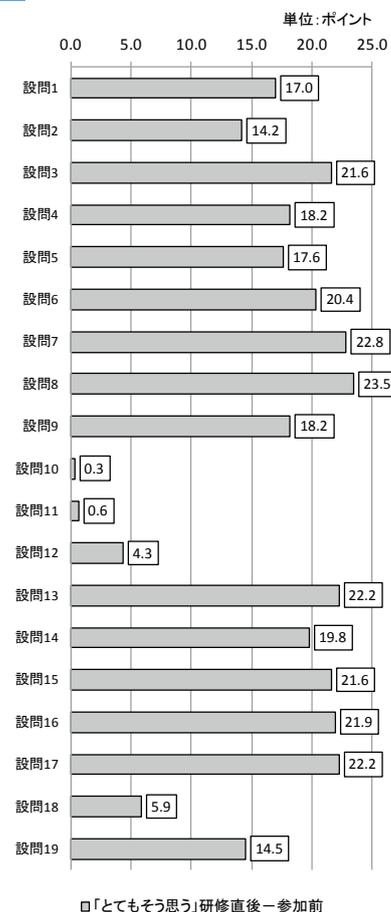
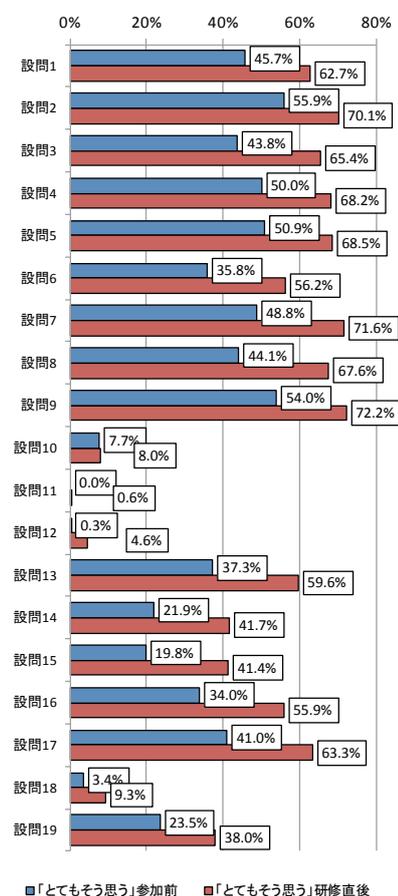
設問	参加前						参加後						p*
	度数	平均	標準偏差	パーセンタイル			度数	平均	標準偏差	パーセンタイル			
				25	50	75				25	50	75	
1	323	4.37	0.657	4.00	4.00	5.00	317	4.62	0.517	4.00	5.00	5.00	<0.001
2	324	4.54	0.529	4.00	5.00	5.00	318	4.70	0.485	4.00	5.00	5.00	<0.001
3	321	4.37	0.624	4.00	4.00	5.00	317	4.66	0.502	4.00	5.00	5.00	<0.001
4	324	4.45	0.590	4.00	4.50	5.00	318	4.68	0.507	4.00	5.00	5.00	<0.001
5	324	4.46	0.590	4.00	5.00	5.00	318	4.68	0.514	4.00	5.00	5.00	<0.001
6	322	4.22	0.687	4.00	4.00	5.00	317	4.48	0.668	4.00	5.00	5.00	<0.001
7	324	4.45	0.568	4.00	4.00	5.00	315	4.73	0.459	4.00	5.00	5.00	<0.001
8	322	4.39	0.597	4.00	4.00	5.00	318	4.66	0.524	4.00	5.00	5.00	<0.001
9	322	4.50	0.581	4.00	5.00	5.00	317	4.73	0.494	4.00	5.00	5.00	<0.001
10	324	2.37	1.243	1.00	2.00	3.00	318	2.03	1.284	1.00	2.00	2.00	<0.001
11	323	1.50	0.542	1.00	1.00	2.00	316	1.37	0.595	1.00	1.00	2.00	<0.001
12	323	1.84	0.842	1.00	2.00	2.00	318	1.83	1.050	1.00	2.00	2.00	0.597
13	323	4.31	0.614	4.00	4.00	5.00	318	4.56	0.636	4.00	5.00	5.00	<0.001
14	322	4.00	0.684	4.00	4.00	4.00	318	4.32	0.673	4.00	4.00	5.00	<0.001
15	323	3.97	0.668	4.00	4.00	4.00	318	4.31	0.675	4.00	4.00	5.00	<0.001
16	323	4.27	0.593	4.00	4.00	5.00	318	4.54	0.570	4.00	5.00	5.00	<0.001
17	319	4.38	0.558	4.00	4.00	5.00	307	4.65	0.529	4.00	5.00	5.00	<0.001
18	320	2.79	0.958	2.00	3.00	3.00	305	2.75	1.174	2.00	3.00	4.00	0.299
19	318	3.88	0.848	3.00	4.00	4.00	304	4.14	0.899	4.00	4.00	5.00	<0.001

※参加前後の各項目の得点に関し Wilcoxon の符号付順位和検定を実施

設問1～設問19の平均点比較



設問1～設問19の「とてもそう思う」割合比較

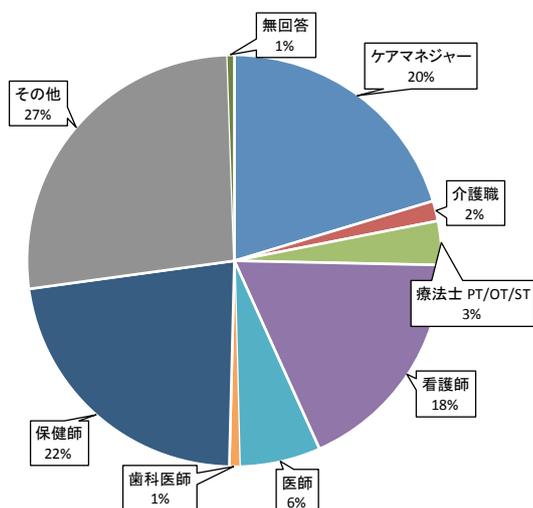


設問1～設問19の「終了直後の点数」-「参加前の点数」の平均値

- 同じ参加者の、研修参加前のアンケート結果と終了直後のアンケート結果の差を、設問ごとに見たもの。
- 設問10、設問11、設問12、設問18は否定的な設問文のため、他設問とは異なりマイナスであるほど研修効果ありと考えられる



研修会参加者の職種内訳 ※複数回答あり



職種名	人数
ケアマネジャー	77
介護職	6
療法士PT/OT/ST	13
看護師	68
医師	24
歯科医師	3
保健師	85
その他	101
事務職(行政職)	50
社会福祉士	21
診療放射線技師	1
薬剤師	2
相談員	2
歯科衛生士	2
ソーシャルワーカー	14
無回答	9
無回答	2
総計	379

(2) 研修内容に関するアンケート調査

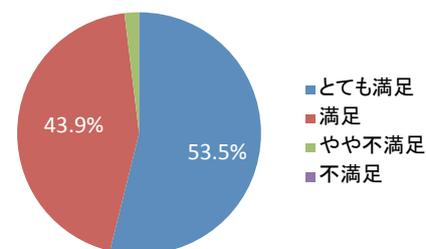
		参加者数	回答数	回答率
① 北海道ブロック	北海道札幌会場	23人	22	95.7%
② 東北ブロック	宮城県仙台会場	31人	27	87.1%
③ 関東甲信静ブロック	東京都港区会場	69人	64	92.8%
④ 東海北陸ブロック	石川県金沢会場	41人	39	95.1%
⑤ 近畿ブロック	滋賀県大津会場	45人	41	91.1%
⑥ 中国ブロック	島根県松江会場	38人	35	92.1%
⑦ 四国ブロック	香川県高松会場	47人	41	87.2%
⑧ 九州ブロック	熊本県熊本会場	47人	45	95.7%
合計		341人	314	90.0%

全体の集計

設問1 本日の研修会の内容全般について、ご満足いただけましたか。

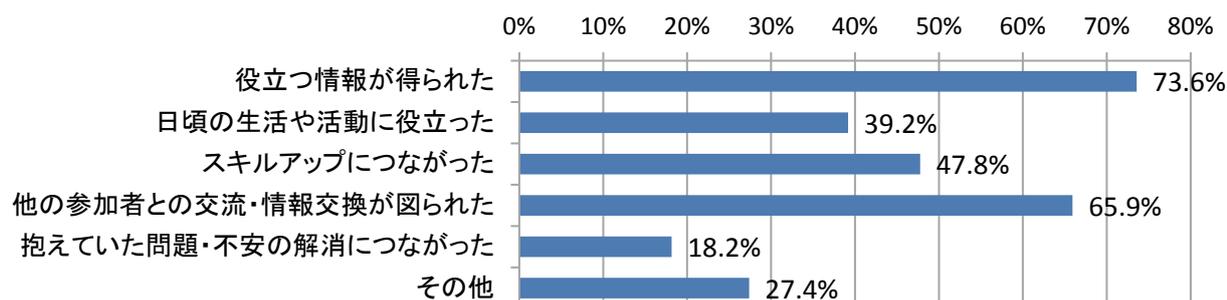
内容満足度	人数	割合
とても満足	168人	53.5%
満足	138人	43.9%
やや不満足	6人	1.9%
不満足	0人	0.0%
無回答	2人	0.6%
計	314人	100.0%

設問1：研修会の内容全般について



設問2 (1で「とても満足」「満足」を選んだ方)どのような点が良かったですか。

設問2：良かった点について（※複数回答あり）



良かった点	人数	割合
役立つ情報が得られた	231人	73.6%
日頃の生活や活動に役立った	123人	39.2%
スキルアップにつながった	150人	47.8%
他の参加者との交流・情報交換が図られた	207人	65.9%
抱えていた問題・不安の解消につながった	57人	18.2%
その他	86人	27.4%
計	854人	

設問3 (1で「やや不満足」「不満足」を選んだ方)どのような点が良くなかったですか。

良くなかった点	人数	割合
役立つ情報が得られなかった	0人	0.0%
日頃の生活や活動の参考にならなかった	0人	0.0%
スキルアップにつながらなかった	0人	0.0%
他の参加者との交流・情報交換ができなかった	2人	0.6%
抱えていた問題・不安の解消につながらなかった	3人	1.0%
その他	4人	1.3%
計	9人	

※以下、アンケート「自由記載」は類型化し、そのままの回答を掲載しています。

良かった点(「満足」、「とても満足」を選んだ方)

楽しく満足度の高い研修会!

- ワークが多く、楽しく受けられました。
- 実際に体験することで理解を深めることができました。
- 会の盛り上がり方がとても勉強になりました。
- グループワークのグループが2種類体験できたこと。
- 今日の参加者の質問に全て答えてくださった。
- 本日の講師の先生方の進め方、話し方がとても参考になりました。
- 今後の研修に即役立てていきたいと思いました。次回あったら複数で参加したい。
- 楽しい研修で、参考にもなりました。
- 今度の町の多職種連携の参考になりました。
- 大変ためになりました。
- 参考になった。
- とても楽しかった。今回の研修内容は、十分使えるので、地元に帰っても実践しようと思う。
- 話すコツみたいなものをつかめた。
- タイムスケジュールがしっかりしていた。とてもオープンで明るい司会がよかった。安心感のスマイルは good
- コーディネーターのコツを教わった。

次に行う多職種研修会テーマが決定!

- 次回行う研修会の内容がほぼ決めることができた。
- GWでの地域診断(第3部)
- 来年の研修会を行うのにとっても役に立つと思います。ありがとうございました。
- 研修会のテーマ、計画を立案することができました。H30年9月の実践に向けて頑張っていこうと思います。

研修プログラムを具体的に考えることが出来た!(多職種研修会開催の企画・運営)

- 前半はとても参考になりました。
- 研修会での細かいわざがためになりました。
- ロールプレイの活用方法を学べたこと。研修運用のコツも学べたこと。
- 研修プログラムの案を得られたため。ヒントもたくさんいただいた
- 具体的な研修のやり方、又、実際に体験を通して参加者として学ぶ事ができました。
- 研修時の参加者への声掛けの仕方、場が和むコツを教えて頂いたこと。
- 研修のプログラム立案を具体的に考えることができた。
- 医師会として、リーダーシップをとって、多職種研修を開催していくにあたって、役立つ情報があった。
- 研修会の計画を具体化できました。
- 具体的な活動につながった。
- あらためて研修の方法を考える機会となった。
- 研修企画の参考になった。
- 研修会開催する際の細かなポイントなどがわかって良かった。また企画する際の難しさを身をもって感じた。
- 研修の盛り上げ方、参加者増方策が勉強になりました。
- 研修を開催する上での手法。
- 効果的な研修会のもち方のノウハウが理解でき、スキル UP につながった。
- 具体的な研修会のプランを作成できた。
- 今後の活動に向け、具体的な立案をすることができた。
- 参加者に対して、満足いく研修にするために、何をどのようにしたら良いのかのきっかけがつかめたように思います。
- 具体的な研修が企画出来た。
- 多職種連携の実践のアイデアが広がった。
- 連携でケース検討を考えていました。困難事例はやめた方がよいというのがわかり良かったです。
- コーディネーターの方法が具体的に理解できました。ありがとうございます。
- プログラムの進め方が具体的に理解できた。楽しく研修することの必要性がわかった。
- 具体的な内容まで考えることができた。
- 実際にプランを立てられて良かった。話がおもしろかった。
- 研修の進め方について具体的な手法を教えていただいたのが良かったです。
- 研修の手法やテーマなど考えることができた。
- 具体的な方法について学ぶ事ができとてもよかった。

多職種研修の必要性が理解できた!

- スピーディーでムダのない進行、わかりやすい説明、目的が明確でした。
- 同じ市内の他職種と一緒に研修を行うことで情報交換、情報共有ができ、一緒に企画できそうで良かった。
- 病院内の多職種連携研修だけではなく病院外の職種をまき込む必要性を感じた。
- ぼんやりした研修目的が明確になり、実際に開催できるようなところまで持っていけたので、良かった。
- コミュニケーションを取るきっかけをつかめた。
- 同じ市の職員と一緒に参加し、問題や課題の共有ができた。
- 国保 HP の Dr、Ns と一緒に参加し、地域診断を行ったことでお互い課題に感じていることが明らかになった。
- 研修の必要性の再確認
- 多職種、と言いながら実際に他の職種の範囲等、内容をきちんと理解せず、何んとなくが多いことがわかった。
- ペルバーの方々と話ができてよかった。
- 薬剤師さんの介入

アイスブレイク、ロールプレイの良さが分かった!

- 今まで受けた研修会でロールプレイ、アイスブレイクなどは含まれたことがなく、面白かった。
- ロールプレイを行う事で、他の職種への理解が深まった。研修の本当の目的、「共に学び「互いから学ぶ」「互いの事を学ぶ」を知ることができて良かった。
- ロールプレイの企画・運営方法のアドバイスが参考になりました。(IPEの体験)
- ロールプレイで他の職種の気持ちがわかった。他職種を理解するのは自分の仕事を見つめ直すことにもなると気づけた。
- ロールプレイ実施します。
- アイスブレイクとロールプレイ
- アイスブレイク、ロールプレイで気持ちが楽になりました。
- 運営の仕方、ロールプレイ
- ロールプレイのノウハウを得ることができた。
- アイスブレイク、ロールプレイ

他の自治体の仲間との情報交換

- 生活支援体制づくり事業⇒現在とても悩んでいる事へのとりくみについて他市の状況がきけた。
- 他の市町村の方の意見を聞いて参考になりました。
- 本市の不足している部分が見えてきた。
- 自分と同じ様な問題点を他職種の方も抱えていたので安心した。
- それぞれの市町村で多様な取り組みがあることが判り、参考にさせて頂きたいこともありました。
- いろいろなところでアドバイスをいただけたこと、参加者の皆さんのいろいろなアイデアに感動しました。
- 地域は違えど、様々な方法が知れ、目からウロコでした。それをどう自分のところにあてはまるように工夫して導入するか考えるヒントになった。
- 実際の研修での手法について理解を深め、他自治体と情報交換できて良かった。
- 悩みを他市の方にも聞いてもらえた。コーディネーターとしての心得についてわかりやすく解説していただいた。

めざす姿はこれだ!(自己啓発:前向きな好影響)

- 亡くなり方をあんころの会。”予約できるんかね?”明日から安心して生きられる、めざす姿はこれだ!と思いました。ありがとうございました。
- 日頃の業務を振り返る事、反省することが本当に大事であることを改めて身に沁みました。
- 情報が得られたし、自分の課題の整理にもなった。
- 気分転換とやる気が出てきた。前向いて進もうと思った。
- 地域包括の方が多かったのですが、私の地元とはちがい参加の方はいろんな資源をごぞんじでした。私の地域でこんな研修を行いたい。
- 自分の理解不足の点が明確になり、良い研修になったと考えています。
- 多職種研修に関する自分のモチベーションを上げることができた。
- 多職種連携研修にぜひ役立てたい!
- 悩み共有ができてほっとした。これでやってみようか…という目安がもてたこと。
- 前向きに取り組んでいこうと気持ちの切り替えが出来ました。また、アベック研修だったので普段きちんと話が出来ない行政職と話が出来たのは大きいなと思いました。
- 看護師、保健師と参加したが、自分の地域の問題を共通認識として解決しようと思うようになった。
- 多職種会議を定期的に行っていますが、少しマンネリ化していましたので新しい刺激剤になりそうです。
- 連携の会は開催しているが、30年度への方向性に迷っていたので、なんとなく光がみえてきたように思います。
- 町全体を考えるよい機会になった。
- 地域の医療の情報についても知る時間がもてました
- H30年1月に多職種研修による事例検討会を予定しており、モチベーションが上がりました。来て良かった。私の地域でも開催したい楽しい会でした。

明日から使える!プログラム・資料の有用性

- 資料をそのままつかえること
- ロールプレイの結果、感想を模造紙に書き出すのが簡易かつ明確なまとめだと参考になりました。
- 資料をいただけただけでも、次につながります。
- 内容が工夫されていて講師の方のトークにひきこまれましたし、いろいろ考えました。イチからマネして、とりくもうか?という気持ちになりました。

良くなかった点(「やや不満足」、「不満足」を選んだ方)

研修プログラムに関すること

- 具体的な多職種連携研修プログラムのイメージができませんでした…。
- ファシリテーション・進行のコツなどももう少し多く、細かく教えて頂けると良かった。また、アイスブレイクの種類もより多く、ロールプレイの進行のコツなども、より具体的に知りたかったです。

参加者自身に関すること

- 後半の研修の企画については1人でできている者の場合1人だけの企画となるので、いつも行っていることになります。(本年既に実施)
- 自分がコーディネーターする立場でないのに参加してしまった…という正直な思いです。1部、2部は大変参考になりました。ありがとうございます。

その他

研修プログラムに関すること

- 後半:せっかくグループにしているならば、グループごとで検討する方が良いと思いました。
- 具体的な細かい資料をいただき、役に立つときがあると思います。上司に伝えたいと思います。
- チームよりもグループでの活動の時間が長い方が良かったです。
- 後藤先生、吉村先生のトークが Good
- 思い切ってアイスブレイクに時間をかけていた。タイムスケジュールが面白く、とても主体的にうけとめられる研修となりました。
- スキルアップ研修をして頂けると嬉しいです。
- 福井県で実施してもらえたら…みなさんが参加できるので。
- 福井県でも開催してほしい。
- 退院支援カンファレンスでロールプレイをしましたが、経験のない人や医療の事が分からない人が入っている場合。
- 第3部の時間が短い。もう少しゆとりの時間があると良い。
- 他市の状況を共有する時間が多い方がよい。
- IPEのコーディネーター(ファシリテーター)は医師だからこそ、言いやすい、進めやすいところもあるのかなと感じる部分もありました。
- 今後、フォローアップ研修も期待したいです。
- ぜひ次回は高知での開催を考えてください。
- とても楽しくすばらしい研修でした。あとは実践ですが…。無料で良いのでしょうか?本日はどうもありがとうございました。
- 次回研修会(スキルアップ等)に参加したい。
- 小さな市町村むけではなく、どのまちにも使えるよい研修でした。このような実践研修をもっと希望します。
- 来年度も開催して下さると嬉しいです。
- 昼食時間1時間だと外食がギリギリになってしまう。
- 地域診断はよかったですと思います。大変おつかれさまでした。

参加者自身に関すること

- とりあえずやってみなければ分からない。
- 違う職種の役割を行うロールプレイなど、今まで経験したことのないもので、貴重な経験となった。
- 他の市町村の情報交換の出来て良かったです。
- 会場につくまでは気が重かったのですが、楽しい研修でかつ、役立つ内容で参加して良かったです。ありがとうございました。
- 何度か研修をしてきましたが、続けること、重ねていくことをがんばりたいと思います。具体的な研修の流れ、技、ポイント、改めて勉強できました。これが目的ではない!ので…連携そのもの、皆が意識できるよう、あきらめず努力します。
- 4月～異動で当事業の担当となりました。わからないことだらけで、地域診断、研修の企画の内容は難しかったです、必要な視点だと感じ、今後詰めていかなければならないと思いました。
- コーディネーターの意味、活動のつながりなどの対応方法は勉強になりました。
- 地域のコーディネートできるか…地域を振り返ると厳しい所もありますが、今日の研修は地域で（一部でも）実践していきたいと思います。
- 多職種の方とお話できる機会は貴重に感じます。地元のなかでも協力的に、積極的に関わっていきたいです。
- 楽しかった。
- とてもわかりやすかったです。また参加したいと思いました。
- 単身での参加でしたので、チームワークは難しかったです。
- とても勉強になりました。
- 他の職種を知る事、考える機会となりました。ありがとうございました。
- 今回の企画のネタがいろいろきけたことがよかった!
- 勉強になりました。
- とても勉強になり、自地区で行っていききたい。
- 先生方がとてもよかった。
- とても楽しく学べる研修会でした。参加させて頂けて本当に良かったです。ありがとうございました。
- 研修を具体的にどう開催していくかメンバーと考える事ができた。
- 他県の取り組み状況を知れて大変勉強になりました。
- なるほどなどと思わされることが多く、ためになりました。ありがとうございました。急な見学をありがとうございました。
- 他の市町は多数での参加で、担当1人でやっているのうらやましかった。協力者を1人でも増やして、研修会等の内容の充実を図っていききたいと思う。
- 県をこえて交流できて、名刺が増えて、これからの励みになります。
- 他の自治体等のモデルケースを聞くことで、「それイイ」と思う事がたくさんありました。持ち帰り、パクらせていただきたいと思いました。大変勉強になる研修でした。ありがとうございます。
- 大変有意義な研修でした。ありがとうございました。
- 多職種研修のテーマをみつけるのが難しかった。自分自身が地域の状況をわかっていないことを改めてわかった。
- 大変楽しく、身になりました。ありがとうございました。来て良かったです。
- とても楽しく学ばせていただきました。帰ってさっそく企画したいです。
- たいへん楽しい研修でした。
- 楽しく研修できました。
- コーディネーターとして自信はないですが、実践しようと思います。
- 定期的にこのようなコーディネーターのための研修に参加し、スキルアップをしていきたいです!

- もやもやが無くなりました。ありがとうございました。
- いろんな方と話せるアイスブレイキングの大切さを学びました。
- クライアント、家族の安心しあわせのためのツールとして、連携が構築できるよう一歩ずつ前進していきたいと思います。ありがとうございました。
- クタクタになりましたが、来て良かったと思える研修でした。ありがとうございました。
- 即、できる事を実行できるように工夫された研修会で、とても参考になりました。ありがとうございました。
- 本日の資料の追加の送付を待っています。
- 楽しく勉強でき、前向きに検討できる研修で良かったです。
- 貴団体のホームページは在宅医療・介護連携推進事業をすすめていく上でいつも参考にさせて頂いています。この度は松江市で研修を開催して下さいありがとうございました。
- 大変参考になりました。地域で実践していきたいと思います。
- また次回も参加したいと思います。ありがとうございました。
- あっという間の一日がすぎました。
- 非常に楽しく、色々知識を学ぶことが出来ました。ありがとうございます。

他「ありがとうございました。」のコメントを多数いただきました。

COLUMN

研修担当者のつぶやき

全8回の研修が無事終了してほっとしています。RIPLS(リップルス)の結果も良好、参加者の方々の満足度も良好、いただいた感想内容も良好。

このコーディネーター研修会参加者の皆さんの地域で研修会が開催される、開催されたらその開催研修会参加者の皆さんの満足度が高い、味を占めて繰り返し実施、地域の多職種連携の質が向上、それによって支えられる地域の方々がハッピー!なんてことになれば最高です。

唯一、全国8か所への行脚は充実していたけど、振り返ると結構つらかったなあ…(^_^;)

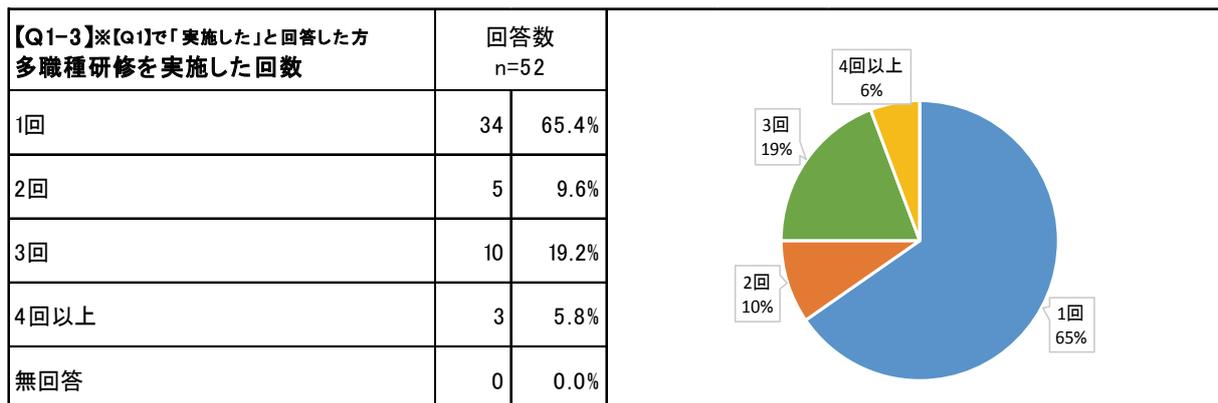
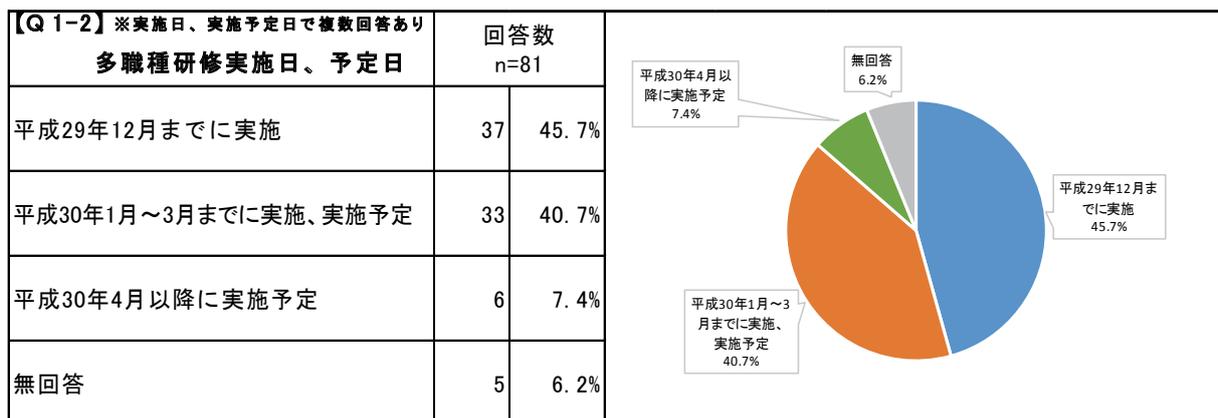
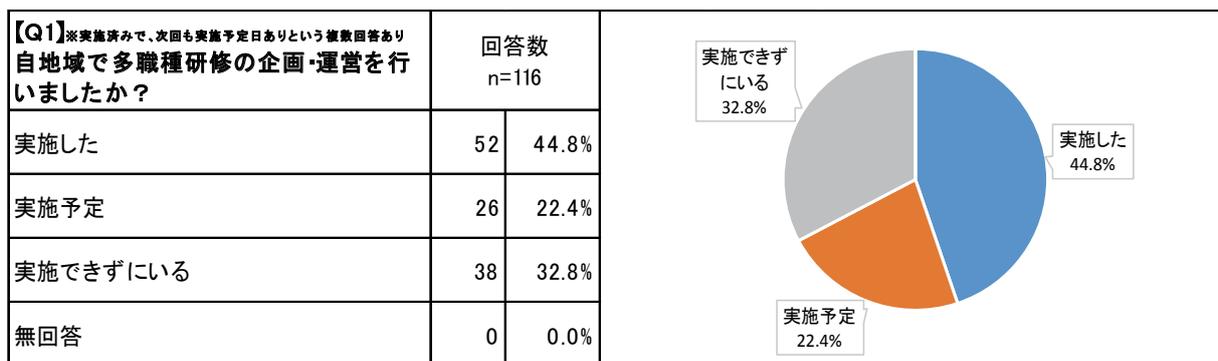
4 参加者へのフォローアップ調査の結果

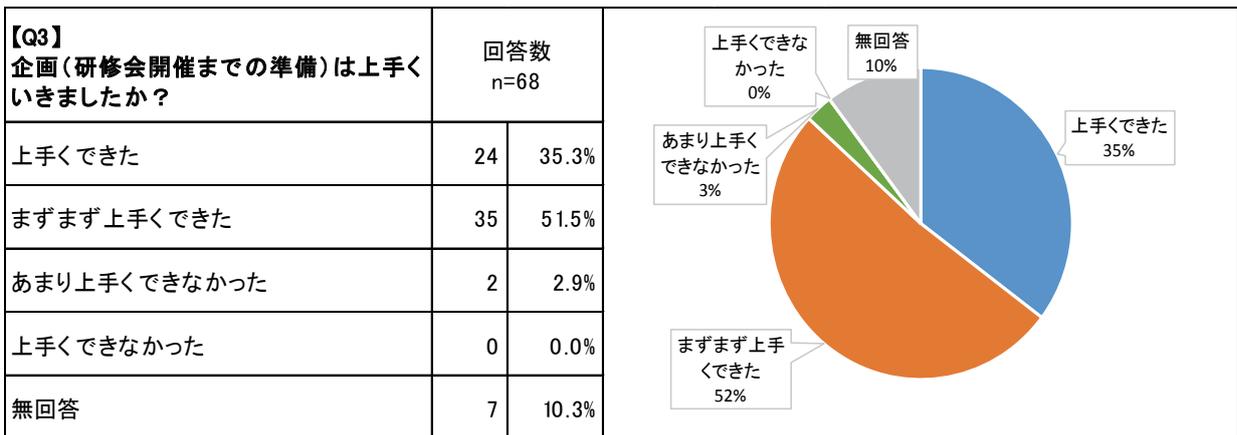
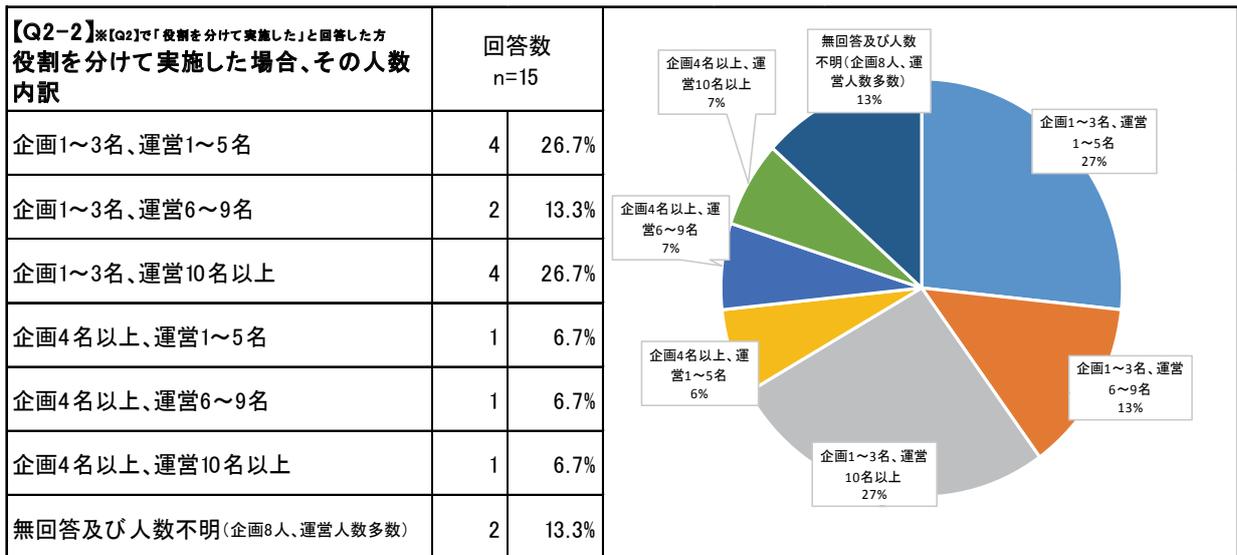
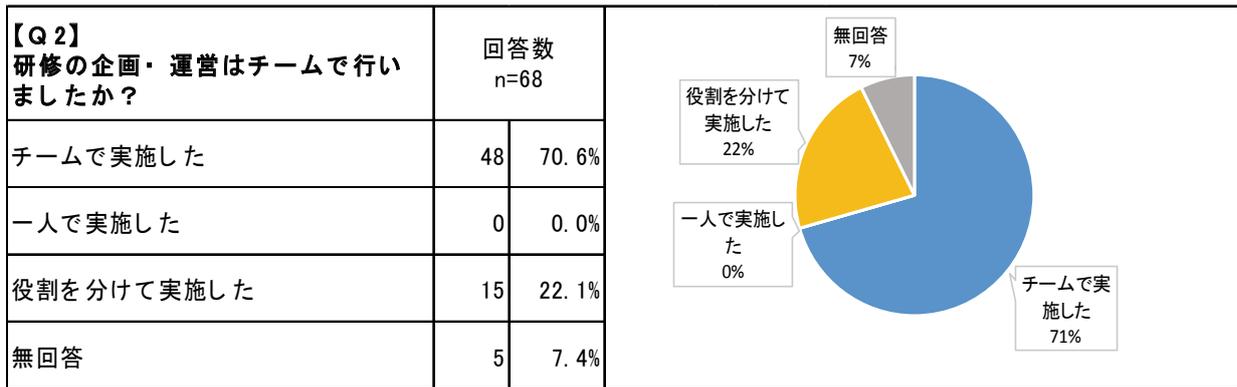
研修会者の研修終了後の活動について確認及び課題解決に向けた支援を行うことを目的にフォローアップ調査を実施しました。

調査対象:研修会参加者全員(341人)

実施時期:平成30年2月

回答数:106人(31.1%)





【Q3】について、「上手くできた」と思う理由

- 多職種意見交換会は昨年度も1回実施しており、経験があった。全体進行のファシリテーターがワールドカフェの実施方法に熟知していた。
- ワーキング部会という多職種で構成した部会を作って、企画を行った。その結果、職種にかたよることなく研修に参加していただけるように声掛けを行うことができたと思う。ワールドカフェ方式をとることで顔見知りになるきっかけになったと感じている。
- 講師調整、周知、人集め等、滞りなく実施出来ました。
- 病院と保険者で月に1回会議を行っている。

- 研修でプログラム作成の演習があった為、やるべきことが明確だった。
- 今回、企画には携わっていないが、研修会を開催するにあたり、市内事業所に文書のみならず訪問をして参加を促していたことで、予想以上の参加者となったためうまくいったと感じている。
- 仙台ブロックの研修で得たノウハウやパワーポイントの素材が非常に役立ちました。
- テーマを具体的に設定、グループワークが盛りあがった。企画通りに進めることが出来た。参加者の感想:集まった分だけ多くの意見が得られて有意義、多職種の想いが理解できたなど見られた
- 毎年行っているの。
- 吉村先生のように上手く進行が出来ませんでした。開始前にBGMを流したり、アイスブレイクで歌を歌ってみたり、緊張しない雰囲気作りを試行して、和やかな雰囲気で出来たと思います。
- 事前に案内を配布して、申し込みを募り、計29名の参加者を得た。
- 9/9に大津市で受けた研修と、いただいたマニュアルがしっかりしていたので参考になりました。
- 企画を多職種で実施している。ファシリテーター(23名)の事前勉強会の実施し当日の運営が円滑にできるようにしている。行政(三市町村)も当日運営を行っている。参加者アンケートも概ね良い評価であった。
- 実施後のアンケート結果から、良い意見をもらった。
- ケアマネとヘルパーを対象とした研修だったが、内容を多職種で話し合い決めるところからのスタートで1回目の研修のアンケートを基に決め、作り上げ、実施結果のアンケートは好評だった。運営側も達成感があった。
- 大勢の参加者が集い、活気あるグループワークができた。
- 準備期間が3か月あったので余裕がありスムーズに準備ができた。研修後のアンケート回収率が82.5%で、95%の方が「参考になった」との回答を頂けた。

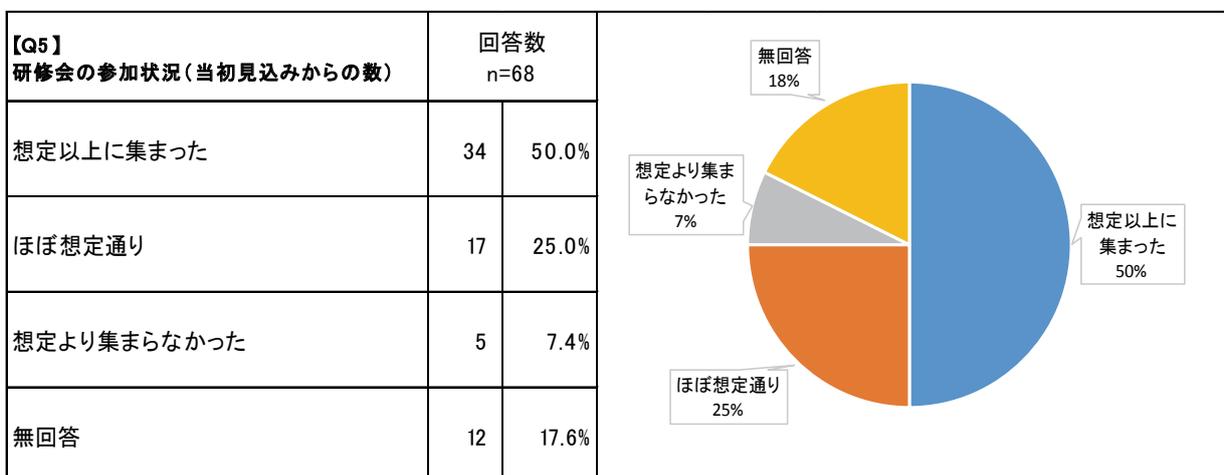
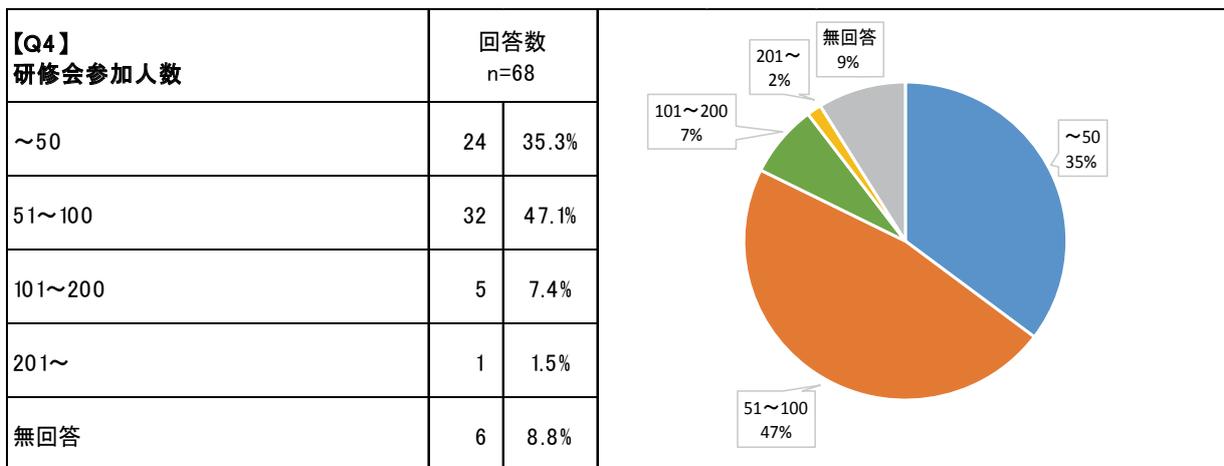
【Q3】について、「まずはまず上手くできた」と思う理由

- 対象者の多くが村内の医師や歯科医師であったこともあり、通知を郵送せず、直接先生方へ持参したこともあり、比較出席していただけた(但し、未だ村内の開業医の4割程度)
- 限られた時間で準備、開催にもっていった。
- 1回目の振り返りから2回目は余裕をもって準備が進んでいる。
- スムーズに準備できたから
- スムーズにできたと思いますが、スタッフの間で負担感の差があるように感じました。
- 役割分担通りに準備が進んだと思う。
- 認識に一部ズレがあった。(自己紹介をどこまで行ってもらうかについて。)
- 通常の仕事のある中、それぞれが時間をつくり打合せ、準備ができた。
- 研修会を開催するにあたり、役割分担をし、それぞれに資料を参考にしながら進行することが出来たと思います。チームとして初めての開催だったので、進行がぎこちない感じもありましたが。
- 平日の夜間(2時間)開催という事もあり、小さな規模での計画であったため。
- チームビルディング、ロールプレイをコンピテンシーにあてはめて説明するのが難しいと感じたため。
- ただ今準備中です。研修会の時の資料、シナリオ等があるので大変助かっています。
- 講師の選定、日程調整、チラシ作成などスムーズにできた。
- 企画書の作成やファシリテーターの打ち合わせなど事前準備に手間をかけた。
- 参加者の感想や参加者同士の交流状況、雰囲気からまずはまずうまくいったのではないかと感じた。
- 薬剤師とケアマネの情報交換会を実施 以前より、薬剤師会からケアマネとつながりたいという声があり、またケアマネのアンケートから薬剤師との連携を望む声も多く、相互のニーズにあった場を設けられた。また、企画にあたり薬剤師会の協力を得、内容を検討することができた。参加者からも継続開催を望む声も多かった。
- 近隣の2町共催で開催したことで、地区の医師会長や2町で経営している病院も巻き込むことができたから。アンケートからも、研修内容に満足との回答が多く得られたため。
- 同じ研修を受けたので、企画段階よりイメージしやすかった。(研修中企画書作成したこともあり)準備された指導案等をもとに進めたので企画しやすかった。*七戸町と合同研修実施
- 開催日を早く決め、その日に合わせて協議を重ねてきたので、ある程度スムーズに準備ができました。但し、開催日を積雪の多い時期に設定したため、交通への影響が出てしまいました。また、協議の過程で当初の参集範囲や時間を変更しましたが、参加者に十分に伝わっていなかったことは反省点です。
- 参加者のアンケート結果より評価(100%が大変良かった・良かったと回答した)「他職種の役割が理解できた」「自分の知識不足が確認できた」等の意見あり
- 第1回目・2回目と手探りの部分が多く、反省点も多々あったが、その都度相談を行い解決に向けて対応を考えていくことが出来た。

- 1人で企画するのでなく協力し合えたから。
- 多職種連携の会を2000年より五地医師会が年3回開催されており、方法を参考にさせてもらっている。
- 既存の他職種連携の会・包括・地区担当と協働し、公民館や地区社協の方と連携したため、情報共有がスムーズだった。センター発案で市民講座を寸劇で実施したが、初回で準備する資料が多く、共有するタイミングが遅くなり、出演者に負担があったのではないかと。
- 今年度のテーマが「退院支援」で、1回目は急性期病院における退院支援についてであった。9月に研修を受講しロールプレイを体験したこともあり、2回目新しい試みとして体験した事例のロールプレイを組み込んだ企画を行うことができた。
- 研修会後の事後配布いただいた資料を活用し、編集して使用する予定で準備中
- 役割分担し、お互い進捗状況を確認め合いながら企画していると思う。
- 流れや準備に必要なことが資料で理解できていたので、上手くできた。
- 隣接の横須賀市医師会の開催規模を考えると小さな規模でした。当地区の人口から考えると、各回50人前後の参加者が集まったことは小さなエリアを優位に取り、顔の見える関係は日ごろからありましたが、多職種交えてのグループワークを3回実施し、初の試みとして実施したスタイルは参加者アンケートにおいて好感をいただきました。
- アンケート結果では、満足度が高かった。顔の見える連携の一助となった。多職種の役割の理解には、まだ時間がかかる。
- 各個人の準備負担量がまちまちだったが、概ねスムーズに進んだ為。

【Q3】について、「あまり上手くできなかった」と思う理由

- 講師の講演時間がかなり長くなったため。講師の話しを優先したいというこちらの思いもあったため。
- うまく広報を行えなかった。具体的な事例検討を行いたかったが準備が間に合わなかった。



【Q5】について、「想定以上に集まった」と思う理由

- 昨年に引き続きの開催であったので、もう少し人数がへるかと思っていた。しかし、前回に変わらず大勢の人が参加していただけたので、ワールドカフェが連携の場として期待されていると思った。
- ワークショップなので、20から30名程度と思っていた。
- ワールドカフェスタイルの意見交換会であるため、苦手意識から参加を躊躇する方も多いのではと予想しました。
- 会場がいっぱいになり、メンバー全員がフルに動くことになった。
- 他の地域からの参加者が多かった。
- 視察団の方がみえ、大変にぎわっていたと思います。
- 夜間(仕事後)の関係で、50人程度参加があれば良い方と思った。
- 市内の方だけでなく視察で他市からも出席され、多数参加された。
- 他の市からの参加もあり、思ったより多くの方に参加して頂けました。
- 研修会当日、医師が参加キャンセルされるのではないかと考えていたが、一名のみの不参加で他全員は参加されたため
- 参加者も申し込みの8割以上は当日、参加されていたので。
- 28年度は介護職の参加が少なく、介護サービス事業者協議会から企画委員を選出して貰い、研修時間帯や研修ニーズを把握しながら打合せを行うなど、またフェイスブックで研修紹介やHPに研修カレンダーを立ち上げるなど、広報に力を入れた結果、参加増に繋がった。
- 隣市で実施している事例検討会へ、当市から参加する方が少ないため。
- 市内多くの事業所から参加があり、様々な職種の方々が集まってくれたため、関心の高さが伺えた。
- 企画には携わらなかったが、30人程度の参加と予想していたため。
- 各職能団体を通じた伝達が想定していた以上に効果があったと思われます。
- 1つの施設から複数の方の出席があり、また、地区の医師会長のご尽力で、医師、歯科医師、薬局関係の方に参加していただけたから。
- 医師会会長との調整で冬の夜間開催だったので参加者を50人前後とみていたが、申し込みの結果、100人弱となった。(そのためグループワークのファシリテーションの確保に苦労しました…)
- (2回目について) 範囲を変更したのが年末で、開催日に近い募集となり、平日昼間の研修だったことから、あまり参加を見込めませんでした。開催通知とは別に、①県医師会に依頼し共催の形で郡市医師会に通知を行ったこと、②県が運営する協議会のメンバーに通知を出したこと、③必要に応じ電話をかけ参加者を募ったことから、想定以上に多く人数が集まったと思われます。
- 当初見込みは100人程度を想定していた。
- 参加者が聞きたい、質問をしたい内容としたからと考える。
- 当初、30名程度を考え、会場も小規模なところを予約していたが、予想以上のニーズがあったため、急きよ会場を変更した経緯がある。
- 企画・運営者だけでなく、協力機関が多かったため、行政職の参加も多かった。公民館や出演する地元の関係者が、積極的に呼びかけたため住民の参加が多かった。
- 各組織団体、広報等の周知。講演会には、大学の教授の周知・協力により、市外・県外からの参加者も多くあり、次の意見交換会の参加の動機付けにもなった。
- 30名程度を予想していたが、それ以上に参加された。
- 病院外の地域の従事者も多く参加して下さったため。
- 予定した人数より集まった。

【Q5】について、「ほぼ想定通り」と思う理由

- 当初から医師や歯科医師の出席については厳しい状況を予測していたので、村内の開業医の4割の出席はほぼ想定していた通りであった。
- たぶん、例年の参加人数くらいの参加を見込んでいます。只今、出席者申し込み中。
- 昨年からの研修会を定期的実施しており、参加者が固定化してきているため想定した人数となりました。もう少し、幅広く参加してほしかったと思います。
- 関係者の人数から換算して予測していたため。
- 参加率の高い人に加え、参加したことのない人への働きかけをしっかりと
- 会場の都合もあり、キャパが限られていたので。予定した程度の参加人数でした
- 前年度にキック・オフとして会を行った際の参加者数から、ほぼ想定数の参加をいただくことが出来た。

- 第1回目が77名であったが、会場を病院から市の施設に変更したこともあり病院関係の方の参加が減少したため
- 費用と会場のキャパシティを考慮し、各回40人規模の企画を行い、のべ3回計120人参加予定をしていたところ、112人の実績であった。当日キャンセルがある中、この人数が集まったことは想定通りと考えている。
- 1回目は、参加人数が多いことを想定し、参加可能人数を制限した。
- 通常研修や勉強会に集まっている人数と同数。
- 150~200名の参加者を見込んでいた。実際には参加申し込み者が171名で、当日参加実人数は155名であった。

【Q5】について、「想定より集まらなかった」と思う理由

- 100名規模の会場を用意していた。
- 著名な保健師を講師として招き、多職種向けの研修会を開催した。特に保健師に参加して欲しいと思っていたが、少なかった。
- 開催時期の設定に課題が残った。人数は見込みから少なかったが、あまり参加されていない職種の参加があったことは評価している。
- 参加者も少なかったが、職種もケアマネジャーに集中していた。

【Q6】 研修プログラムの内容※複数回答あり	回答数 n=68	
講演	43	63.2%
アイスブレイク	40	58.8%
ロールプレイ	23	33.8%
グループワーク	42	61.8%
施設見学・体験	3	4.4%
その他	15	22.1%
無回答	3	4.4%

内容	割合
講演	63.2%
アイスブレイク	58.8%
ロールプレイ	33.8%
グループワーク	61.8%
施設見学・体験	4.4%
その他	22.1%
無回答	4.4%

その他の内容
<ul style="list-style-type: none"> ● ワールドカフェ ● 意見交換会 ● 研修後に懇親会予定 ● アイスブレイクとまではいかないが、隣の人同士の自己紹介後、感想を言い合い、発表させた。 ● 退院カンファレンスのDVD視聴 ● 寸劇 ● これからアンケート結果を参考に、医療介護のコアメンバーで検討。その後全体でまずお茶会を開催予定 ● 口腔ケアにおけるブラッシング指導 ● 事例検討

【Q7】 多職種研修コーディネーター研修会を受講したことは役立ちましたか？	回答数 n=68	
役立った	56	82.4%
思ったより役立った	6	8.8%
思ったほど役立たなかった	2	2.9%
役立たなかった	0	0.0%
無回答	4	5.9%

回答	割合
役立った	82%
思ったより役立った	8.8%
思ったほど役立たなかった	2.9%
役立たなかった	0%
無回答	5.9%

【Q7】について「役立った」と思う理由

- 他縣市町村の現状を知ることができ、自分の町の連携について違う角度から見ることができた。そうすることで、今後の方向性、課題について再確認できたと思う。お互いの職種をまず知ることが重要であることについては再確認できた重要な点であった。そのための方法としてアイスブレイクで緊張をほぐしながらロールプレイを行うという事は印象に残っている。
- それぞれの立場でそれぞれの立場の見解、取り方、考え方を伝えたり、受けたりすることができた。
- 記載の多職種連携研修とは異なりますが、研修受講後、ケアマネジャーを中心に意見交換会を開催しました。その際、時間配分や内容構成等に、本研修会で得た知識を活かすことが出来ました。
- ひとつの型として自信を持って企画、開催できた。
- 研修会を受けていなかったら段取りがわからなかった。
- アイスブレイクのネタなどそのまま使えてとても助かりました。
- マニュアルだけではイメージが難しいと思う。
- 研修を受けなければ何をどう進めてよいか全くわからなかった。
- 資料を参考にして、すすめることができた。
- 運営や研修の手順が理解でき、悩みが少なくてすむ。
- 平日夜間の研修会は短時間であるため、これまで講義+質疑のパターンであったが、今回の研修会を受講し、参加者同士の触れ合いを大切に、少しでも知り合いをつくって欲しいと、主催者として意識を変えることができた。
- 研修中はニックネームでの呼び合いを提案し、場を和ませることを心がけた。
- 受動型の研修から、参加者が自ら考え、それを全体で共有できる仕組みをつくりたいと考えるようになった。
- 研修会アンケート結果から、チームビルディングやロールプレイを通して、他職種の役割やチームで連携することの大切さを知ったという回答が多く見られたので。
- 自分が受講者として体験しているの、自分が企画してやるのに、とても役立ちます。
- 司会進行に役立ちそう。
- 企画においても素人感覚で計画している為根拠に弱いと思うから。
- 研修でどう進めていけばいいかイメージできた。迷う時は研修の資料を確認している。事例も掲載されており助かります。何よりも、一緒に研修に参加した和田智子先生と相談しながら進められることが非常にありがたいです。
- 企画・運営にあたり、たくさんのヒントをいただき、コーディネーター研修で学んだことを活用することができたため。
- 多職種研修を行う意図・意味を理解することが出来たから。
- グループワークを行うにあたって、和やかに進めていく場の雰囲気作りや話題を振る人を見つける観察の仕方など役立ちました。今後はロールプレイも取り入れたいと思います。
- 実際は予定の時間配分どおりに進まなかったが、臨機応変に何を優先すべきかを考えられた。
- ファシリテーターやコーディネーターの立場になって、先生方がデモンストレーションを行っていただいたり、使用したパワーポイントなどを用いて、研修会に従事するメンバーらに効果的に周知することができ、結果的に会場は盛り上がり参加者からはよかったとの声が多数寄せられたため。
- 多職種研修コーディネーター研修会で学んだ内容を活かして研修会を企画できた。
- 企画の段階で研修でのロールプレイや資料が参考になった。楽しい研修会を心掛け企画できた。(研修受講しなかったら、一方的な講義で終わっていたかも)
- 場の持ち方、時間の使い方、参加者への配慮、次につながるような工夫など、参考にできた
- コンピテンシーの考え方が大変重要だと感じました。ご本人(患者・利用者)・ご家族を中心に、コミュニケーションを図り、同職種・多職種を理解し、地域での関係性の中で、各々の職種の役割を全うする。漠然と研修を企画・運営するのではなく、ヒアリング等を定期的に行い、地域における行政・職能等の課題を抽出し研修を企画・運営することの繰り返しがある研修だとわかりました。研修をするにあたって、場の雰囲気づくり等の細かい部分においても、本研修会が役だったと思われます。
- 細かい説明や間の取り方等レクチャーして頂いたので、楽しい研修会になった。
- アイスブレイクの役割と、課題目的を明確にしたプログラムを理解できた。自分がかかわっている事業の研修で活用していきたい。
- プログラムのロールプレイの部分のみを行った(研修時間を1時間30分としたので)「自分の職種以外の他の職種を演じて、役割を知ること」を目的として、同じような形式で行った。しかしロールプレイのシナリオは地域の実事例を元に作った
- 次回(平成30年度)の多職種研修で受講時に行ったアイスブレイクやロールプレイを 活用し、専門職同士の相互理解を図っていく計画とした。
- 参加者と意見交換が出来て今後の開催の参考となった。

- 他の専門職の立場になって考えるという点。
- ちょうど企画がマンネリ化していて、研修を受講したことで企画する上で新しい手法等を講義と実体験できたこと、他の自治体の取り組みについてグループワーク等で刺激を受けたこと
- 進め方、内容など受講したことによりイメージがつきやすかった。
- 研修参加は自分から希望しましたが、当日に具体的な研修企画を考える中で、何かが違うと感じながら参加していました。それは事前にいただいたワークシートの内容を考える時から始まっていました。そして研修を終えてからその原因に気づくことができました。原因は課題が明確になっていない。また課題を関係者と共有していないと気づき、12月に在宅医療介護連携のアンケートを実施し、現在まとめ中です。2月に医療介護連携の中核となるメンバーと今後の打ち合わせをします。3月に全体のお茶会を予定しています。その時にペーパーチェーンは使わせて頂こうと思います。ありがとうございました。
- グループワークの運営の方法など役に立った。
- 企画の時に、雰囲気が和む内容を心掛けたり、アイスブレイクの必要性など意識することができたと思う。
- マニュアルに沿って運営することができた。
- コーディネーター役の動きをつかめた。マニュアルがしっかりしている。
- 初めて会った方々とても有意義なディスカッションを行えた。多職種研修は初めてだったので、自分の中でモデルケースとなっているため。
- 研修で企画したことが実現できた。「看取り」をテーマに、3回シリーズで開催し、各医療・介護専門職種だけでなく、市民も交えた研修会が開催できた。
- 多職種の役割を理解することの必要性を理解できた。
- 研修運営側の参加者への配慮、内容の検討、参加メンバーとの距離の縮め方等大いに参考にさせていただきました。
- 研修会を参考にした流れ、研修内容とした。
- 地域の従事者の方々と共に圏域の医療福祉環境の特徴や課題を考える良いきっかけとなった。
- 技術的に難しい内容を講師よりわかりやすい解説があった。特にロールプレイの手法は参考になり、地域に持ち帰って実践したいと考えた。

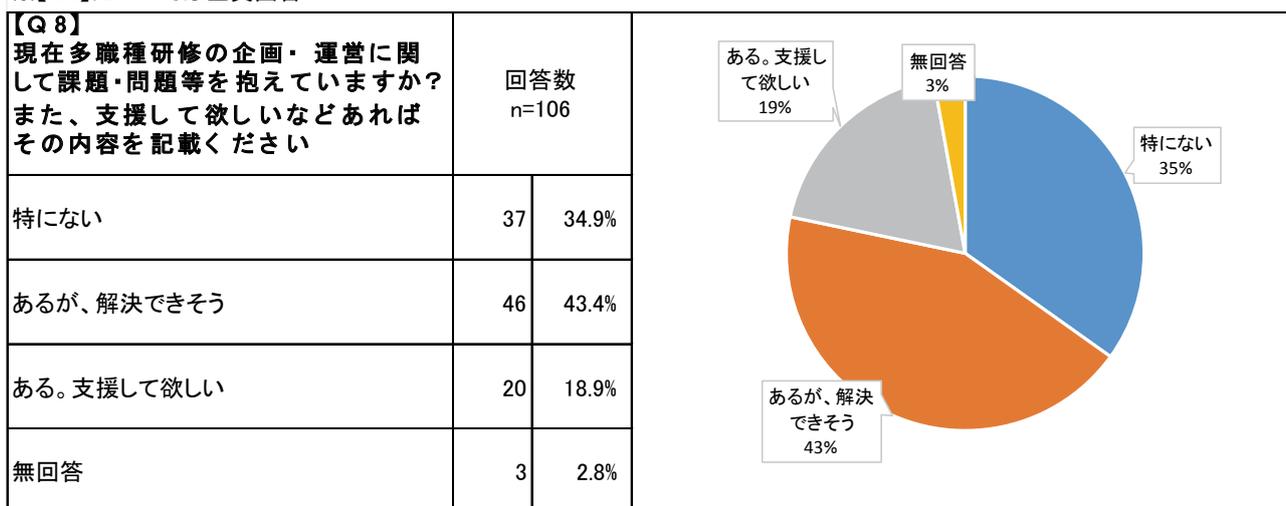
【Q7】について「思ったより役立った」と思う理由

- 地域診断の実施方法の教授・ロールプレイのシナリオ等の提供
- ワールドカフェとか知らなかった。
- 参加するまでは不安が大きかったが、参加したことで他職種の業務の大変さがわかり、自分の業務に幅がでたと思う。
- 知識だけでなく、ロールプレイを通して同じグループの方へ親近感が湧く実感が持てた。参加して楽しかったので、こういう運営ができれば来て良かったと思える研修なるというモデルができた。ロールプレイ良かったが、コーディネーター研修自体がとても洗練されており、司会の方やコメントされる皆さんが分かりやすくユーモアを交えて話される様子を真似したいと思った。どうなったらそうなれるのかという疑問が残り、解決できていない。
- ロールプレイを体験し、効果が実感できた。流れや考え方、研修内容について、資料がとても参考になった。
- ロールプレイの手法について、応用させていただくことができた。

【Q7】について「思ったほど役立たなかった」と思う理由

- 今年度はいずれも主に村内の開業医(医師や歯科医師)を対象とした機会であったため、気を使い過ぎてしまい思うように(自分のペースでは)進めることができなかった。
- 今回の多職種研修には直接役立てられなかったが、今後の企画運営に役立てていきたい。

※【Q8】については全員回答



【Q1】について「実施した」「実施予定」と答えた方のうち、【Q8】について「特にない」と思う理由

- 今後3月にも研修会等を開催する予定であり、その出席状況や結果を踏まえ、今後改めて相談させていただきたいと考えておりますので、その節はよろしくお願い致します。
- 医師、先輩メンバーがいてくださるので、とても心強いです。
- 行政や事務所内で相談しながら企画しているから。グループダイナミクスを高めるにはファシリテーターの存在が必須だと思っている。
- 今後も経験
- 現在の多職種研修のプログラムをしばらくシナリオや参加者（職種等）を替えて行っていけると思うので企画・運営に関しては特に課題等は感じていません。ただ今回ロールプレイを実事例でシナリオを興したので、そこに時間がかかりました。またアイスブレイクも企画担当者のアイデアで違ったものを行いました
- 今のところは、特に課題を感じる事柄は出てきていない。
- 先々の研修内容も漠然とであるが検討をしている。開催準備の流れも分かってきた。
- 多職種の研修については、事例検討会やシンポジウム後のワークショップなど方法がいくつかあるが、これからも範囲を広げ行っていきたい。

【Q1】について「実施した」「実施予定」と答えた方のうち、【Q8】について「あるが、解決できそう」と思う理由

- これまでの研修で出た意見から、実際に課題として取り組まないといけないことはないのか、それは何か、どうすれば解決できるのかについて、多職種で考えていければよりよい連携がはかれるように思う。しかし、この研修に1回も参加して頂けていない機関や職種が一部おり、どのようにすれば連携の必要性を感じ、この研修会に参加して頂けるかが今後の課題であると思う。
- 今後も、多職種連携の場に参加してくれる人が、増えれば相互理解できる人が増えると思う。
- 多職種連携のための研修会を開催し3年目になるが、参加者が徐々に減っている。今年度途中には、開催回数を減らすべきか等、色々と悩んだが、今後も、現在の活動を地道に継続し、参加してくれる受講者に満足できる内容を提供することが大事だと思うし、小さいながらも成功の輪を沢山作って広げて繋げることが大切だと思うようになったので。
- あるけど、みんなで考えてやろうと思います。
- 医師の参加が少ない。
- 医師とのつながりかたをどのように進めて行けばいいか迷っていますが、先生にとってメリットがあることを伝えられる材料をそろえていきたいと思います。
- 参加者が固定化してきていることが課題と感ずます。そのため、参加出来ない方のための研修や意見を聞くことも必要と感ずています。また、医療職の参加が少しずつ増えてはいるのですがまだまだ少ないことが課題と感ずます。
- 市民や多職種のニーズを捉え、より実のある連携に結びつく研修機会が必要。今後、医療介護連携推進委員会（仮称）が設置される予定であり、委員の協力を得ながら開催予定。テーマ設定や手法等、先進事例や好事例を参考にしたいので、事例紹介だけでなく、コーディネーター向けの研修機会や相談できる体制があると助かります。

- 次回のテーマやねらい、ターゲットをどのように見直していくか。申込者は今後も増えそうだが、キャパシティとして大丈夫か？
- 研修会実施後の参加者のアンケートから次回研修会等の企画について(興味を持ちそうな企画)
- 日時や内容の調整について
- 話し合いの内容がどうしても同じようなものになってしまう。
- アイスブレイクとシナリオ説明時間が想定通りではなかった。時間配分を検討し、解決できそうである参加者が多く、グループワーク時の声が気になった等の意見あり。→(会場の検討)
- なぜ今、連携しなければならないかという点について、現状と課題、方向性を共有(行政も含めて)できればと考えている。
- 企画について市で実施していたが、他の職種の方に企画に参加していただくようにすることで意見を取り入れながら企画・運営していきたい。これまで保健医療福祉関係者を対象としていたが、H30年度は住民の方も参加していただき、在宅医療の推進について一緒に考える機会としたいと考えているが、手法等で不安があるので相談させていただきます
- まず実施してみます。
- テーマや規模など課題はあるが、相談できるため話し合いながらできると思う。
- 医師の参加が少なかった。今後、医師会との十分な連携が必要。今後、継続できるかどうか。企画から運営の事務的費用、人件費などが問題。今回、当院で経験した事例を用意しましたが、大変でした。
- 多くの職種に参加してもらいたいと思っているが、なかなか参加されない職種がある。団体に呼び掛けてもらうと同じ様な顔ぶれになることが予想されるが努力していくしかない。
- いただいた資料などを用いながら色々やっていけると思う。
- 企画の内容について、どのようなテーマを取り上げるか。地域の課題と繋げ、医療・介護連携推進につながるような研修を企画していきたい。
- 自職種での研修・コーディネーター役が地域に必要なことから、その育成について検討している。
- 研修会の継続の為に、会議や協力者を募っていく必要がある。
- 継続して研修会の開催する為の労力。チーム一丸となって取り組んでいきたい。
- 医師の多職種研修会への参加者数が少ないのが課題であったが、最近では医師会の協力も得られML等で研修会等の周知をしていただけるようになった。

【Q1】について「実施した」「実施予定」と答えた方のうち、【Q8】について「ある。支援して欲しい」と思う理由

- 参加者の顔ぶれが毎回同様という現状にあります。新規参加者を集める工夫をご指南いただきたいです。グループワークのテーマ設定にも毎回苦慮しております。
- 参加職種が偏っている気がする。訪問介護、デイサービス等の介護員が多数参加できると良い。
- 参加される方が限られてきて、新たな参加者をとりこめない。それぞれの職員の意識のもち方、研修内容の魅力が増やせれば…
- ①幅広く知識を身につけたい。例:受講生に意欲を引き出す方法、アプローチ方法②他市町村の取り組み事例を知りたい。
- 前回(平成29年10月開催)、今回と多職種研修(交流)会を開催し、次回からは二職種マッチングの研修会を検討しています。そこで、どのような内容やプロセスで招集・運営を行っていけばよいのか悩んでいます。
- 地域内(広域)で多職種研修の場が設定できない。医療(医師会、歯科医師会、薬剤師会)や介護(ケアマネ、施設職員、在宅サービス事業所)が集まる場を設定する気配がない。
- 医療機関からの参加者数が少ない。
- 多職種研修コーディネーター研修会を複数で受講することで、当日の運営を共有しながらできるため
- 研修会を行い課題として挙げた、「介護支援専門員と医療系の訪問看護」「介護支援専門員と主治医」との連携が上手くいくためにどのようにしていったらよいのか。(受講した研修会で行っていたロールプレイが有効でしょうか…。)
- 入口の部分では、県・市町村において、効果は別として、概ね多職種連携の研修を実施しております。地域毎に課題は違うものの、本研修会のように、一連の流れを詳細にまとめたものは、研修を企画・運営する上で大変参考になりました。次の展開として、本研修を現場レベルにどう活用していくかを考えなければいけません。そういった意味で、連携における現場での実践(在宅における医科歯科、薬科ケアマネ、栄養歯科、介護事業所間等)を整理し、そういった人材を育成するための研修の企画・運営についてご支援いただけると有り難いです。
- A2とA3と迷うところですが、同じ部署の相談できるのが大きいです。外部の方とも沢山協働しており、心強くもあ

りますが、初対面の方や、権威の強い組織との協働は、下準備が多く、人によって対応方法が異なるため毎회가勉強です。他の地域でモデルとなるような取り組みをされているところの動画などを参考にしたり、直接連絡をしたところ具体的にアドバイスをいただき、大変助かっています。しかし、地域によって、対する人によって課題も異なってくるので、まず把握に時間を要します。

- コーディネーターを増やしたいので、研修があるとありがたいです。
- 他の研修の見学、参加してみたいことや開催しての学びなど共有する機会があるとまたグレードアップできると思います。
- 参加人数が少ないことがあるのが気になるのですが。
- 講師等の選定について情報がありませんでしたら提供いただきたいです。講師の選定・グループワークの方法・グループワークの適切な人数配置等
- 支援は不要であるが、会議を重ね多職種メンバーの関係性は深まっているが歯科医師会、栄養士の積極的な参加を促すことがまだまだ難儀な状況である。ごちゃまぜ研修はまだ実現していないので、近いうちに実施したいと思います。

※【Q1】について「実施できずにいる」と答えた方のうち、【Q8】について「特にない」と思う理由

- 今年度の研修については、日程が決まっており、そこに追加することはできなかった。今年度の課題抽出と来年度の取組について話し合う第4回多職種合同会議の場で意見を出し、反映させていく考え。
- 道・保健所等が開催する研修会等を活用し、町内関係事業所へ周知するとともに、地域ケア会議で内容の伝達を行っている。今後、必要性に応じて町内関係者を対象とした研修会や学習会を検討していく予定である。
- 今別末に市の地域包括ケア推進課主催の多職種研修があるため、参加し、今後の参考にしていく予定。
- 多職種で集まる機会も多くあるため、中心になるところが決まれば、話し合いながらできると思う。
- あとは実施するだけ。

※【Q1】について「実施できずにいる」と答えた方のうち【Q8】について「あるが、解決できそう」と思う理由

- 当市では、多職種研修の際に、医師の参加が課題となっていた。現在、医師会を通じてワーキンググループの開催や訪問診療を実際に行っている医師への事例発表等の働きかけを行っている。この結果を、研修の企画・運営に反映させていこうと考えている。
- 研修もだが、在宅医療・介護連携について医師の積極的な参加が不透明。今後は事業全般に医師の関わりを勧めていきたい。そうすれば、医師向けの研修を企画することが出来ると思います。
- 当市では、多職種研修の際に、医師の参加が課題となっていた。現在、医師会を通じてワーキンググループの開催や訪問診療を実際に行っている医師への事例発表等の働きかけを行っている。この結果を、研修の企画・運営に反映させていこうと考えている。
- 現在、いろいろな団体が団体同士の多職種連携研修を行っておられ、研修の数も多いためこれ以上増やすのがどうかと思いつつ、今後について考えています。研修の内容を生かしながら運営していきたいと思っています。
- 具体的な事業イメージを担当職員で共有できたと思うので、内部での検討・調整も進めやすいはず。ただ、業務に追われ、その時間を持つことができないでいる。
- 中心メンバーで、課題の具体化。検討内容、手法を考えたいと思っている。
- 研修で学んだ事を踏まえながら他市町村の研修などにも参加し、企画・運営に携わっていきたくと思っています。
- 他の研修がすでに企画されており、時間がない。

※【Q1】について「実施できずにいる」と答えた方のうち、【Q8】について「ある。支援して欲しい」と思う理由

- 地域包括支援センターへの研修を充実させる必要がある(他の地域の好事例、包括の支援内容など)。
- まだ、問題提起の段階ですので、今後お願いすることになると思います。よろしくおねがいいたします。
- 多職種間で、共通の目的に向け協同したり、モチベーションを高めていく上で、動機付けをどのような形で行っていく必要があるのか等、視点や考えの違いが見られる集団でのグループワークの手法等、より具体的な対応法が学べたり、体験することが出来る機会があればいいと、個人的には強く感じています。

多職種研修コーディネーター研修会を全国8会場で実施し、延べ300人を超える方の参加を得ることができました。参加職種も多岐にわたり、各自治体の関心の高さがうかがい知れました。

多職種連携に関する準備性の向上はプログラム作成過程でも評価してきましたが、今回の参加者においてもRIPRSの結果により示されており、コーディネーター研修に参加するような比較的意識の高い方においても国診協版プログラムに短期効果があることが再確認されました。アンケート結果からは大部分の参加者がコーディネーター研修会に満足しており、研修プログラムを具体的に考えることができた、楽しく満足度の高い研修会であった、次に行う多職種研修会テーマまで決定することができた、アイスブレイクやロールプレイの良さがわかった、多職種研修の必要性が理解できた、プログラム・資料の有用性がよい、自分たちのめざす姿の確認や研修会運営の動機付けができた、他の自治体の仲間との情報交換が可能であった、などのご意見をいただくことができ、コーディネーター研修会のプログラム自体もおおむね受け入れられるものであることが確認されました。参加者の職種も医師、歯科医師、看護師をはじめ、ケアマネジャー、保健師、介護職、事務職、社会福祉士などの多職種にわたっており、こうした参加者であっても、本コーディネーター研修会の満足度が高かったことを鑑みると、特別な職種だけに受け入れられるような研修会ではなく、保健・医療・介護・福祉の様々な職種に受け入れられるような研修会であったことも確認できました。

フォローアップアンケート結果からは、回答者の約2/3が実際自分の地域で多職種研修を実施あるいは実施予定と回答しており、また、こうした実施に対してコーディネーター研修会が果たした役割として、使い勝手の良いマニュアルであったこと、一度経験することで実施における様々なバリエーションが低くなっていること、ロールプレイ・グループワークといった参加型研修を導入しやすかったこと、運営の様々なコツが利用できたことなどがあげられていました。結果として回答者の約80%が「コーディネーター研修会が役立った」と回答しており、本コーディネーター研修会が各地域で実施される多職種研修会開催に一定の役割を果たしていることが確認されました。

いずれにしても私たちの企画した多職種研修コーディネーター研修会は研修会を企画する様々な職種のニーズに十分こたえられる有用な企画であり、今後様々な自治体などからの支援依頼にも耐えうるものであると思われました。

国診協版「多職種研修運営ガイド・プログラム」の普及のために、全国8か所(国診協ブロック協議会単位)で多職種研修プログラムの運用を支援する基幹施設「(ブロック)支援拠点施設」を整備し、継続的かつ効率・効果的な運用体制を確保しました。

①対象

国診協版「多職種研修運営ガイド・プログラム」の運用に関して理解し、同ブロック内における支援活動が可能な(ブロック)支援拠点施設を設置しました。

②実施内容

(ブロック)支援拠点施設では次の内容を実施します。

- 1) ブロック内で開催する「多職種研修コーディネーター研修会」参画
- 2) ブロック内の「多職種研修コーディネーター研修会受講者」へのフォローアップ
- 3) ブロック内の自治体等における「多職種研修」の開催支援(自治体要望対応)
または、基幹施設における「多職種研修コーディネーター研修会」の開催等
- 4) 「多職種研修コーディネーター研修会」に参加できないブロック内自治体等への支援(自治体要望対応)

■ (ブロック)支援拠点施設

①北海道ブロック(北海道)

北海道／本別町 → **本別町地域包括支援センター**

②東北ブロック(青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県・新潟県)

秋田県／横手市 → **市立大森病院**

③関東甲信静ブロック(栃木県・群馬県・茨城県・埼玉県・東京都・千葉県・神奈川県・山梨県・長野県・静岡県)

静岡県／浜松市 → **浜松市国民健康保険佐久間病院**

④東海北陸ブロック(富山県・石川県・福井県・岐阜県・三重県・愛知県)

岐阜県／郡上市 → **県北西部地域医療センター国保白鳥病院**

⑤近畿ブロック(滋賀県・京都府・奈良県・大阪府・和歌山県・兵庫県)

滋賀県／高島市 → **高島市民病院**

⑥中国ブロック(鳥取県・島根県・広島県・岡山県・山口県)

島根県／飯南町 → **飯南町立飯南病院**

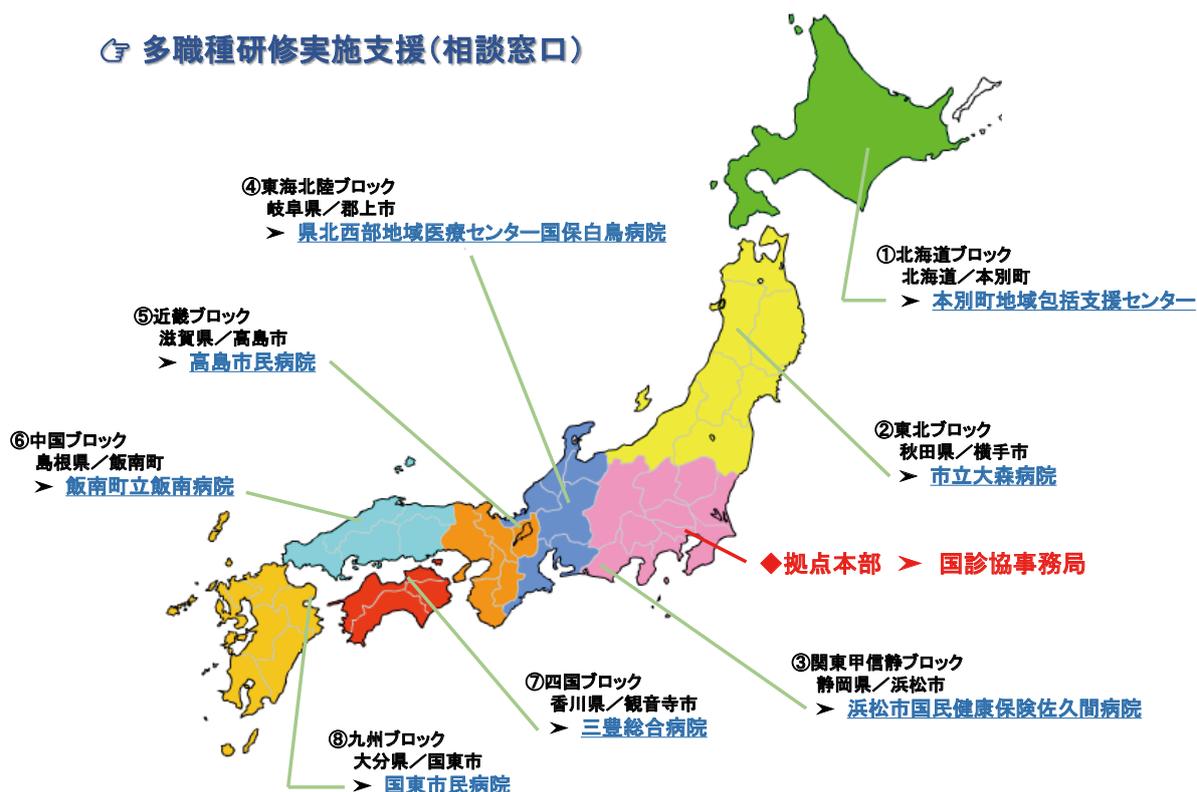
⑦四国ブロック(香川県・徳島県・愛媛県・高知県)

香川県／観音寺市 → **三豊総合病院**

⑧九州ブロック(福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県)

大分県／国東市 → **国東市民病院**

📍 多職種研修実施支援(相談窓口)



1 (ブロック) 支援拠点施設での活動状況

全国8カ所の(ブロック)拠点施設を設置し活動を開始しました。

拠点施設では、多職種研修の企画・運営に関する内容について、主に、E-mail及び電話での相談を柱に、必要に応じて企画運営の支援を行います。

本年度は、平成29年12月までに設置準備として多職種研修企画運営のノウハウのトレーニング期間として準備を進め、平成30年1月から本会ホームページに支援活動の広報及び全都道府県及び地方厚生局への広報も行いました。

設置後の活動期間が短いことから、対応件数はまだまだかもしれませんが、切実な課題を抱えた自治体からの相談やマンネリ化防止に向けた新たなチャレンジとしてのヒントを欲しいとの相談等が寄せられています。

また、研修プログラムの内容は、多職種連携の研修プログラムの基礎として、他の職能団体の研修や、医学生、看護学生の研修等でも応用が可能ということで、自治体における多職種研修の支援のみならず対応しています。

さらに、香川県では、本事業に関心をお寄せいただき、香川県の全市町村を対象とした多職種研修コーディネーター育成の研修会を開催しました。

今後も広報活動を積極的に行っていきますので、悩みを抱えるだけでなく、一歩進むために本支援拠点の相談・支援機能をご活用いただければと思います。

活動実績

		電話・mail等での相談 (研修方法等の相談)	企画・ 運営支援
① 北海道 ブロック	本別町地域包括支援センター	2件	1件
② 東北 ブロック	市立大森病院	5件	2件
③ 関東甲信静 ブロック	浜松市国民健康保険佐久間病院	3件	1件
④ 東海北陸 ブロック	県北西部地域医療センター 国保白鳥病院	2件	4件
⑤ 近畿 ブロック	高島市民病院	3件	1件
⑥ 中国 ブロック	飯南町立飯南病院	1件	2件
⑦ 四国 ブロック	三豊総合病院	2件	2件
⑧ 九州 ブロック	国東市民病院	2件	2件
計		20件	15件

主な相談内容

- 研修主題は決めたがグループワークをどのように行えばよいか
- グループワーク結果の共有の仕方について
- いつも顔を合わせている中でのアイスブレイクの必要性について
- 開催の支援の依頼
- 人口が少ない村で研修を行うコツを教えてください
- 医師の参加が少ないです。どのようにしたら医師に参加してもらえますか？
- どのような手順で研修を行ったらよいかかわからず困っています。手順を教えてくださいませんか。
- 研修会参加後、チームを作ったが今後どのように活動すればよいか 等

主な企画・運営支援内容

- 島根大学の学生(医学生・看護学生)を対象とした地域医療研修会で、今回の多職種研修でのロールプレイを導入
- 香川県健康福祉部長寿社会対策課地域包括ケア推進グループ 県内市町村等研修コーディネーターに対する研修会 企画運営支援・実際の運営(四国ブロック拠点施設との共同)
- 市多職種研修会でごちゃまぜロールプレイによる研修会の企画運営支援
- 医師会研修会での講演
- モデル地域での企画運営支援
- 大分県看護協会看護職能I・II合同研修会の運営支援 等

(ブロック) 支援拠点施設 秋田県・市立大森病院**基礎情報****◆人口**

15,301人

◆高齢化率

34.5%

◆医療機関・介護施設・事業所の状況

町立羽後病院の他開業医は3ヶ所。町が運営する特別養護老人ホーム2ヶ所と民間が運営する老人保健施設1ヶ所。グループホーム2ヶ所、有料老人ホーム6ヶ所がある。

◆多職種研修開催実績

地域包括支援センターが主体となって、これまで2回実施されている

◆研修会企画・運営の課題

テーマの選択に難渋していること、毎回同じ人が参加して新たな参加者の掘り起こしが課題になっている。また、町立病院や開業医の参加が少ないのが悩みの種である。

Scene 1 多職種研修会の企画・運営支援**●対象地域の状況・相談内容**

これまで地域包括支援センターが中心となり2回の研修会を行ってきたが、多職種連携の大切さをなかなか伝える事が出来ない現状であった。参加者が介護職に偏り医療職の参加が少なく、医療的な課題に直面すると話が前に進まないことがあった。医師から基調講演を行ってもらいその後グループワークを行いたいとの相談があった。

Scene 2 多職種研修会当日の様子**●支援(実施)内容**

○開催日時:平成30年2月21日(水) 18:30~20:30

○開催場所:羽後町文化交流施設「美里音」多目的ホール

○研修会参加者数:79名

うち参加職種(歯科医師・薬剤師・保健師・病院看護師・訪問看護師・施設看護師・社会福祉士・介護支援専門員・介護福祉士・管理栄養士・救急救命士・リハビリ療法士・社協職員・警察官・町職員等)

○研修プログラム内容

①開会

②町長挨拶

③基調講演「多職種連携で創る地域包括ケア」市立大森病院長 小野 剛

④グループワーク

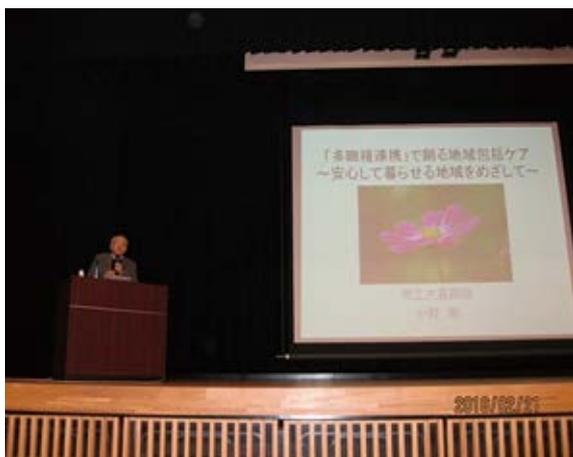
⑤閉会

- 支援拠点施設の関わり:基調講演の講師及びグループワークの企画支援
- 参加者の感想:●基調講演で在宅医療のこと、看取りのこと、医療介護連携の事が理解することができた。
 - グループワークで他の職種の考え方が理解できた
 - 地域での医療・介護資源の確認が大切と思った。
 - 町立病院の先生や看護師さんが多く参加してほしい

●プログラムの効果の確認

○アンケート結果

簡易アンケートを実施し、参加者からは研修内容についての満足度の高さを確認することができた。また、今回の研修をきっかけに研修会開催の継続について希望の声が出ており、今後の取組みにつながる良い研修会となったことが確認できました。



Scene 3 研修後のフォローアップ

●継続事項

- 今後もテーマを変えて多職種研修会を開催する予定とのこと。今後も可能な範囲で基調講演やグループワークのお手伝いをさせていただくこととしたが、基本的には地元の町立病院の先生や医師会の先生にお願いしてみてもどうかと提案した。

COLUMN

ブロック拠点施設担当者のつぶやき

- ▶参加者の多くは意欲的であり介護職のパワーを感じることができました。
- ▶グループワークに対して苦手意識があったようで最初は重い感じであったが徐々になれてきて職種を越えた活発な意見交換が行われました。
- ▶ほとんどの方が自分たちの地域を良くしていきたいという意識を持っていました(素晴らしい!)
- ▶あわよくば、町立病院の医師や医師会の先生の参加があれば…。
- ▶地域包括支援センターの職員が企画から運営まで行っていた。大変ご苦労されている事がわかりました。今後は医師や多職種数名で構成する研修会企画運営のチームを作って進めることが良いのではないかと思います。

(ブロック) 支援拠点施設 滋賀県・高島市民病院**基礎情報****◆人口**

49,542人(平成30年3月2日現在)

◆高齢化率

34.0%(平成30年1月1日現在)

◆医療機関・介護施設・事業所の状況医療機関32(病院3)、歯科医院20、調剤薬局21、
訪問看護ステーション4、居宅介護支援事業所17**◆多職種研修開催実績**

市を中心した活動実績あり

◆研修会企画・運営の課題

病院と在宅との繋がり、病院スタッフに地域の医療情勢を認識させる

Scene 1 多職種研修会の企画・運営支援**●対象地域の状況・相談内容**

主な後方病院は3つに渡る。平成17年に6町村が合併してできた市であり、面積は滋賀県一の広さであるが故に、医療体制において多職種連携は必要不可欠である。そうした背景の中、市民が地域でその人らしく生活できる環境を整備していくことをサービス、人材などを含めて検討していきたい。

Scene 2 多職種研修会当日の様子**●支援(実施)内容**

○開催日時:平成29年11月15日(水) 18:00~19:00

○開催場所:高島市民病院 大会議室

○研修会参加者数:49名

うち参加職種(医師、看護師、助産師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床工学士、臨床検査技師、MSW、介護職員、ケアマネジャー、福祉用具プランナー)

○研修プログラム内容

①開会

②研修会の趣旨・流れの説明

③アイスブレイク

④グループワーク・発表

⑤閉会

○支援拠点施設の関わり:



○参加者の感想:

- 身近な仲間が集まることで、具体的にどうしていきたいということが言葉に出して言いやすい雰囲気になって、繋がりが深くなっていくので良かった。
- 高島市のことが分かって良かった。課題も多いが、多職種連携の充実に協力したいと思います。
- 最初は看護職種の方々に混じり緊張もしましたが、色々な話を聞いて良かったです。医師のお話もとても身に沁みるものでした。
- 連携が自分からどうしていくか。自分なら何ができるかを考える機会となりました。
- 色々な方の顔を見るきっかけとなりました。私自身なかなか新たに必要なこと、問題点などが思い浮かべている事ができておらず、日々考えずに過ごしていると思いました。もう少し改善点など必要なことを考えて見つけていけるようにしていきたいと思いました。
- 自分の知らない情報も知る事ができてとても楽しい時間でした。このような会があればいいなあと思いました。日々困っていることなども相談できるかなと思います。

●プログラムの効果の確認

参加者からのアンケートでは、継続した活動を望む声を多数頂けた。今後も活動を続けていくことで、参加者の自主性と主体性も養っていき、地域活動を活性化していきたい。

Scene 3 研修後のフォローアップ

●継続事項

高島市を4つのエリアに分けて実施していく予定であり、他のエリアでの開催を予定している。また今回開催したエリアにおいては、継続して研修および集会が持てるように、当院を拠点として活動していきたい。

COLUMN

ブロック拠点施設担当者のつぶやき

平日の時間外にも関わらず、非常の大勢の方が積極的に参加して頂いたことに高島の医療・福祉関係職種の医療/介護体制への意識の高さを感じました。特にグループワークでは、アイスブレイクが必要なかったのではないかと感じる程の白熱した議論や意見交換ができていたことから日常より、現状の課題と改善策を一人一人が考えられていたのではないかと思います。しかし日常の業務では、病院と在宅の職種が顔を見せて話し合う機会が少ない事が改善に至りにくい1つの点ではないかと感じます。その点においては、今回の研修は受講者の意見にもあったように、非常に有意義な時間となり、今後の連携の架け橋になったのではないかと思います。

グループワークの意見に出ているように、地域医療は医療介護と狭い範囲から、人口・生活環境など街づくりの視点といった広い範囲まで考えていく必要があると思います。医療・介護関連職種が共同かつ継続して活動できる地域づくりにこの様な研修を通じて協力できたらと思いました。

(ブロック) 支援拠点施設 岐阜県・国保白鳥病院**基礎情報****◆人口**

1,648人(平成30年2月1日現在)

◆高齢化率

31.8%(平成30年2月1日現在)

◆医療機関・介護施設・事業所の状況

国保診療所2(スタッフは兼務)、デイサービス1、特養1

◆多職種研修開催実績

平成27年12月に村内の行政、介護福祉、医療職を対象に実施あり

◆研修会企画・運営の課題

村内の顔見知りの多職種のみでの研修では緊張感が保ちにくい
村内で村の課題を議論するだけでは解決方法に限界がある

Scene 1 多職種研修会の企画・運営支援**●対象地域の状況・相談内容**

主な後方病院が3方面5病院にわたり、2病院は県境をまたぐ。それぞれが高速道路で1時間前後の距離にある。そうした環境の中で後方病院に白川村の限られた資源を含めた実情を知ってもらい、スムーズな在宅療養移行につなげていきたい。

Scene 2 多職種研修会当日の様子**●支援(実施)内容**

○開催日時:平成30年2月22日(木) 14:00~16:00

○開催場所:白川村南部地区文化会館

○研修会参加者数:

30名(白川村13名 後方5病院より16名、岐阜県庁1名)

うち参加職種(事務職、社会福祉士、看護師、保健師、介護支援専門員、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士、医師)

○研修プログラム内容

①開会

②白川村の医療介護資源の紹介 村民課長(保健師)

③グループワーク

④施設見学(瀬音さくら山荘、平瀬診療所)

○支援拠点施設の関わり

○研修全体のコーディネートを白川村スタッフとともに検討

○白川・平瀬診療所長とともにグループワークを運営

○参加者の感想:

- 白川村の限られた社会資源、在宅療養を支える困難や努力の現状がよくわかった
- 後方病院との連携支援により在宅療養をかなり支えることができることもわかった
- お互いを知ることができた、刺激になった、新しい見方ができた

●プログラムの効果の確認

- 事後に「本日、印象に残ったこと」「今後のこの会に期待すること」「本会を継続する場合の要望」「その他、意見等」についてアンケート調査を行った。22名より回答を得て一覧にまとめ共有しました。



Scene 3 研修後のフォローアップ

●継続事項

- 白川村の担当者は年に2回以上開催を検討しています。拠点施設（後方病院でもある）としても必要に応じて継続して計画に関わっていくこととしています。

COLUMN

ブロック拠点施設担当者のつぶやき

それぞれ白川村から車で1時間前後の後方病院から、お忙しい中で連携室等の担当者が実際に出席して下さるのが第一の心配事でした。白川村の担当課長さんらが村長名で案内を出し、直接足を運んで参加をお願いする気合ぶりに、各病院2名以上の参加があり、かつ積極にご発言、ご参加いただき本当に安心したというかありがたく思いました。限られた時間の中で全員が交流することは困難でしたが、白川村と後方病院の間でお互いのことを知りあうことはできたのではないかと思います。運営に当たっては白川村の担当者と直接会う機会は限られましたが、メールや電話での繰り返し打ち合わせでなんとか準備ができました。村民課長さんの全面的なご協力、また診療所医師のすばらしいプレゼンテーションが、会の目的を達することができた一番の要因です。

(ブロック) 支援拠点施設 香川県・三豊総合病院**基礎情報****◆人口**

61,070人

◆高齢化率

32%

◆医療機関・介護施設・事業所の状況

医療機関43、特別養護老人福祉施設7、老人保健施設5、グループホーム6、訪問看護ステーション2と、医療機関や介護施設はますます充実していますが、在宅での医療介護連携についてはまだまだ十分できていないのが現状です。

◆多職種研修開催実績

平成25年から年3~4回、在宅医療介護勉強会を実施してきました。

◆研修会企画・運営の課題

参加者の固定化、何をテーマにするかなど企画するのが大変、いまひとつ盛り上がらない、時間の設定が難しい、医療職の参加が少ないなどの課題がありました。

Scene 1 多職種研修会の企画・運営支援**●対象地域の状況・相談内容**

これまで、三豊総合病院が主体となって、多職種研修会を実施してきましたが、行政と開催するのは今回が初めてでした。開催半年前から定期的に準備委員会を開催しましたが、市の職員の方と、より顔と顔のみえる密接な関係が築けたと思います。観音寺市の在宅での看取りが9.7%と非常に低く、今回は在宅での看取りをテーマに開催することとしました。

Scene 2 多職種研修会当日の様子**●支援(実施)内容**

○開催日時:平成30年1月21日 9:00~12:10

○開催場所:三豊総合病院講堂

○研修会参加者:62名

うち(医師4名、歯科医師1名、薬剤師7名、介護支援専門員15人、訪問看護師4人、訪問介護員5人、相談員5人、支援相談員2人、理学療法士6人、作業療法士3人、言語聴覚士1名、歯科衛生士4人、管理栄養士4人、保健師1名が参加。)

○研修プログラムの内容:

テーマ『地域での生活を支えるために専門職としてできること』

- ①開会の挨拶 観音寺市健康福祉部長挨拶
三豊市・観音寺市医師会 在宅医療・介護保険担当理事挨拶
- ②第1部 まずは体験!多職種連携
アイスブレイク/ロールプレイ
テーマ「他職種の役割や思いを知ろう」～がん患者さんの希望をかなえるために～
- ③第2部 講義を通して学ぶ!
テーマ「在宅での看取りの支援」
- ④第3部 「自分たちの地域でなにができるか」を考える!(ワールドカフェ方式)
テーマ「在宅生活を支えるために必要なこと」
- ⑤まとめ・アンケート
- ⑥閉会の挨拶 観音寺市健康福祉部高齢介護課長
- 支援拠点施設の関わり:

半年前から準備委員会を立ち上げ、今回は主催を観音寺市が行い、ロールプレイと、講義の部分を三豊総合病院が担当する形で役割分担をして開催しました。

○参加者の感想:

- 他の職種が大変であることが、よくわかった。
- 行政の方も含めて、話し合うことができてよかった。
- ワールドカフェ形式で、日頃の相談したいことが、気軽に話せてよかった。



Scene 3 研修後のフォローアップ

多職種研修会終了後、在宅同行研修の募集を行ったところ、計3名の方が参加されました。午前中、訪問看護、訪問診察、訪問歯科などへ同行した後、訪問看護ステーション、歯科保健センター、救急外来、緩和ケア病棟、入退院サポートセンター、老人保健施設などを案内し、昼食を食べながら、地域医療部の紹介、意見交換を行いました。より顔と顔の見える関係を築くことができたと思います。

COLUMN

ブロック拠点施設担当者のつぶやき

ロールプレイの事例については、今回、当地域で経験した事例を使用しました。やはり、実際に自分たちで経験した事例の方が、リアリティーのあるカンファランスになるのではないかと思います。多職種がかかわった事例の選定が難しいと思いますが、一旦事例が決まれば、多職種研修プログラム・運営ガイドを参考に比較的容易にシナリオを作成することができました。

今回、初めての開催でしたが、ますます盛り上がったと思います。あらかじめ、盛り上げてくれそうな参加者を考慮し、グループ分けを行ったのがよかったと思います。

役割分担して行えば、比較的負担感なく開催できるのではないかと思います。

医師の参加を促すのが課題であり、医師会との連携は必須と考えます。

(ブロック) 支援拠点施設 香川県・三豊総合病院／本部委員会共同

基礎情報

香川県医療介護連携推進事業担当課の要請により、香川県内の市町村職員を対象に「多職種研修コーディネーター」の育成を目的とした研修会を開催しました。

Scene 1 多職種研修会の企画・運営支援

●対象地域の状況・相談内容

県内各地において保険者での多職種研修は、実施回数等にバラつきがありながらも実施しておりますが、どのように運営していけば良いのかと検討している保険者もいるとのことで、今後、保険者が企画・運営をしていく上でノウハウなどを教えていただければ、とお考えになり、今回の研修の依頼がありました。

Scene 2 多職種研修会当日の様子

●支援(実施)内容

○開催日時:平成29年11月8日(水) 13:30~16:30

○開催場所:香川県社会福祉総合センター7階第1中会議室

○研修会参加者数:26名

うち参加職種(事務系10名、保健師9名、社会福祉士4名、栄養士1名、ケアマネジャー1名、薬剤師1名)

○研修プログラム内容

自己紹介(アイスブレイクも兼ねる 他己紹介)

地域診断

グループワーク(ワールドカフェ)

「多職種連携研修会成功のヒント! あなたが取り組んだ多職種連携研修会で経験した、人に伝えたいうまくいったコツのお話し」

事例紹介

多職種連携活動事例の紹介~三豊総合病院や観音寺市の例~

全員参加型ロールプレイ

再度アイスブレイク+標準シナリオによるごちゃまぜロールプレイ

まとめ 質疑応答

○支援拠点施設の関わり:

拠点施設と本部委員会とで実施

拠点施設が運営支援と事例の紹介を担当

○参加者の感想:

●グループ内の人との意見交換会は良かった。

- 多職種を経験し「こんな考え方もあるんだ」と気づくことができた。また、ワールドカフェでは他の市町の取組みを知り、自分の市でも活かしたいと思った。
 - ワールドカフェは初めての体験でしたが、リラックスして意見交換ができた。自分の職種以外の役になることで、不安なことや他の職種に聞いてみたいことが見つかった。
 - ワールドカフェ、ロールプレイ等の方法を用いて研修を経験でき、参考になりました。地域包括支援センターで実施している研修会でも活用したいと思います。
 - 楽しい研修でした。アイスブレイクにて緊張をほぐし、グループワークに繋がることで発言もしやすくなることがわかりました。
 - 非常に相手の職種について考えさせられる演習だった。いろいろな職種の方の経験に学ばされた。
 - 連携の強弱を図式化してみることで、圏内の傾向を客観的にみることができました。見えた課題を持ち帰りたいと思います。カフェ形式とても良かったです。取り入れたいと思いました。
- プログラムの効果の確認**
- 研修会直後のアンケート結果ではおおむね満足が得られていた。
 - その後の各地域の多職種研修会開催につながったかどうかは明らかではない。

Scene 3 研修後のフォローアップ

●**継続事項**

- 次回開催の相談等

COLUMN

ブロック拠点施設担当者のつぶやき

ワールドカフェなどのグループワークの方法論をお伝えすることも研修内容としては大事なことのかなと感じました。とはいえ、国診協プログラムのアイスブレイク、地域診断、ロールプレイはやはり王道です。研修会後のフォローをどうしていくとよいのかが課題と感じました。

1 作成にあたって

本マニュアルは多職種研修を運営する人に対する支援のためのマニュアルです。多職種研修運営はその実施の必要性はだれも疑うところではありませんが、実際どうやって行ったらよいかは悩みの種の様です。したがってそれを運営するコーディネーターを支援できる仕組みが期待され、本事業においてはそういったことに対応できるよう多職種研修コーディネーター研修会の実施、支援拠点施設の整備を行っています。一方、支援施設としても支援依頼に対してどう答えるとよいか、内容の細かい点への質問にどう答えていくとよいかといった課題もあるかと思われ

ます。

本マニュアルはコーディネーターに対してどう支援の言葉や態度をとるとよいかの参考にさせていただくために作成しました。多職種研修を運営する様々な段階でのアドバイスを求められることを想定し、国診協版「多職種運営ガイド」に沿って支援のポイントとなるコメントを掲載しました。また、全国8会場で行った多職種研修コーディネーター研修会で挙げられていた多職種研修運営における課題を整理し、それぞれに対するワンポイントアドバイスをコツとして掲載し、支援の一助としていただく様にも配慮しました。

今後、拠点施設が実際の支援していく中で生じた相談内容や課題を整理しバージョンアップしていく予定です。

1

活動成果

平成30年度より介護保険法の地域支援事業の包括的支援事業として新たに在宅医療・介護連携推進事業(いわゆる(ア)~(ク))を創設し、市区町村が主体となっており、取り組むこととなっています。地域包括ケアをそれぞれの地域で推進するためには、多職種連携はそのキーであるといっても過言ではありません。それぞれの地域において多職種連携を醸成させるためには多職種連携研修会は必須です。しかしその運営には様々な課題が横たわっており、それらが研修会運営者の大きな負担となっています。こうした研修会の運営負担を軽減し、その地域のまちづくりにつながっていくような多職種連携を構築するために、研修ノウハウの提供や支援は欠かせません。私たち全国国民健康保険診療施設協議会(国診協)はすでに多職種研修プログラムを作成公開し、それに準じて開催していただければ効果的な研修会開催が可能ですが、さらに今年度実際こうした多職種研修会を運営する人の負担感を軽減し、支援を充実させるために、多職種研修コーディネーター研修会の開催、全国8か所(国診協ブロック協議会単位)で多職種研修プログラムの運用を支援する基幹施設「(ブロック)支援拠点施設」の整備、さらにはこうした支援拠点施設において支援の質の保証に役立つよう多職種研修運営ガイドに沿った「コーディネーター支援マニュアル」の作成を行いました。

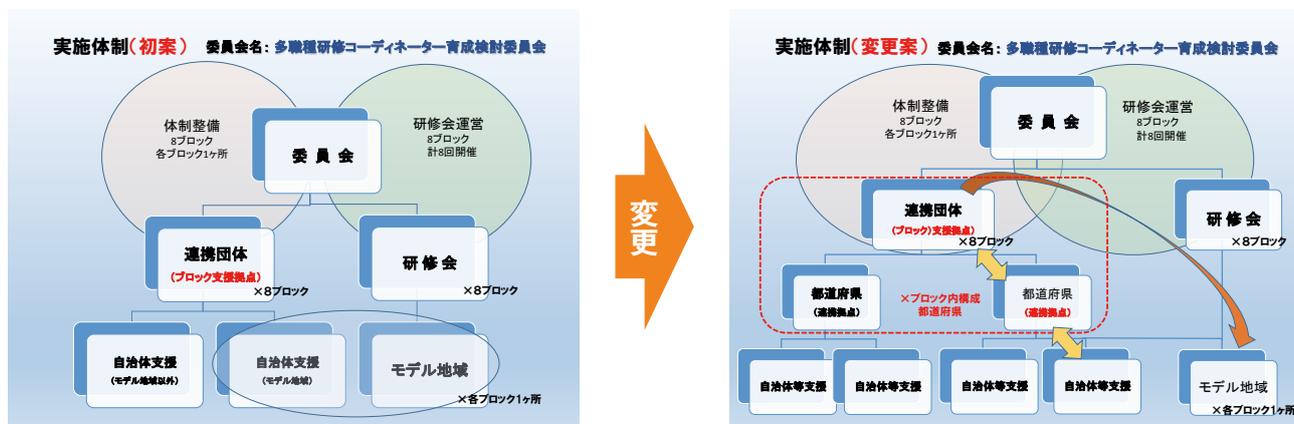
①多職種研修コーディネーター研修会の開催

全国8か所(本会ブロック協議会単位)で多職種研修プログラムを運用するためのコーディネーター研修会を実施しました。コーディネーター研修会は多職種研修運営ガイド・研修プログラム・職種連携コンピテンシーの解説に始まり、多職種連携・多職種研修運営の検討(課題抽出)、アイスブレイク/ロールプレイの体験、研修運営の「コツ」と「ポイント」の説明、地域診断にもとづく研修会企画立案からなり、延べ300人を超える参加者と高い満足度を得るとともに、実際の各地域での企画運営にも寄与していることが確認されました。本コーディネーター研修会自体が、多職種研修会運営のノウハウを得る有効な会であるとともに、コーディネーター研修会のプログラムとして今後も利用可能なものと思われました。

②多職種研修プログラムの運用支援拠点施設の整備

1回のコーディネーター研修会をもってして各地域で多職種研修会運営に努力していただきたいということでは、運営側の負担軽減にはなかなかつながりません。当会を構成する国保直診施設は地域包括ケアの構築と実践を旗印に長きにわたり多職種連携を重要視しその経験やノウハウを組織として積み重ねてきています。今回国診協版多職種研修プログラムの普及を図るにあたり、より身近なところで相談支援できる場を整備することが、全国各地の自治体において多職種研修会運営負担の軽減につながると考え、全国8か所(本会ブロック協議会単位)に支援拠点施設を設置しました。加えて、設置議論の中でより身近な施設が望ましいとの意見があり、都道府県単位での支援施設設置に発展させていく予定でいます。こうした拠点整備により、直接的な開催支援から、些細な運営上の疑

問課題解決の支援が可能になるのではないかと期待されます。まだ設置したばかりであり多くの活動実績を積み重ねているわけではありませんが、今後そうした窓口としての機能を十分発揮するとともに、本会の全国的なネットワークにより情報共有やより質の高い支援体制の構築を目指していきたいと考えています。



③多職種研修運営ガイドに沿った「コーディネーター支援マニュアル」の作成

多職種研修を運営する人に対する支援においても一定の質の保証が必要です。いろいろと生じるであろう多職種研修会運営の課題に対しどう応えていくかその大まかな基準となるものが求められます。本事業においてはこの点も保証するために、コーディネーターに対してどのように支援の言葉や態度をとるとよいかの参考にさせていただいたためのマニュアルを作成しました。本マニュアルは多職種研修を運営する様々な段階でのアドバイスを求められることを想定し、国診協版多職種研修運営ガイドに沿って支援のポイントとなるコメントを掲載するとともに、全国8会場で行った多職種研修コーディネーター研修会で挙げられていた多職種研修運営における課題を整理し、それぞれに対するワンポイントアドバイスをコツとして掲載し、支援の一助としていただく様にも配慮しました。今後、拠点施設が実際の支援していく中で生じた相談内容や課題を整理しバージョンアップしていくことができればと考えています。

④事業全体を通して

本事業により、多職種研修コーディネーター研修プログラムに準ずることにより、いかなる職種の人も多職種研修会運営の自信が向上し実際の開催につながること、今後全国各地で行われるであろう多職種研修会運営の負担軽減につながる可能性を持った支援拠点施設の整備にいたったこと、そうした支援施設においても支援が一定の質の担保を保ちながら取り組むことができるよう「コーディネーター支援マニュアル」が作成できたこと、が成果として挙げられます。

今後、今回整備した(ブロック)支援拠点施設が全国各地で行われる多職種研修会を運営する方々の心のよりどころとなるよう継続的な取り組みをしていきたいと考えます。

モデル事業連携団体による「(ブロック)支援拠点施設」の体制整備が整ったことから、本会のホームページでご案内するとともに、より多くの自治体関係者の方々にご活用いただきたく、「在宅医療・介護連携のための多職種研修実施支援拠点施設整備並びに支援開始についてお知らせ(周知依頼)」(国診協発第252号:平成30年1月18日付)を本会会長名にて、地方厚生(支)局地域包括ケア推進課及び都道府県介護保険主管部(局)在宅医療介護連携推進担当者宛にご案内をお送りしました。

ご案内文

本会の事業運営につきましては、平素から格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

本会では、平成29年度独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業により「多職種研修コーディネーター育成事業」を実施しております。

本事業では、別添のとおり、多職種研修の企画・運営のできる人材育成を行うとともに、自治体(多職種研修運営者)支援のための支援拠点施設整備を行ってきました。

支援拠点施設整備においては、今年度は主にブロック単位での支援拠点施設整備を行っており、次年度以降も継続して支援が可能となるよう、今後、都道府県単位でも連携拠点施設の整備を進めることとしております。

現在、ブロック単位での支援拠点施設が整備され、稼働しておりますので、貴都道府県管内の市町村において「多職種研修の企画・運営に悩んでいる」等、自治体担当者(多職種研修運営者)からの相談等がありましたら、本支援体制があることを情報提供いただき、ご活用いただけると幸いです。

また、今後、情報発信・情報収集を継続し、本事業の支援ネットワークを拡大していきたいと存じますので、ご支援いただきますようご理解、ご協力の程お願い申し上げます。

(別添)

全国国民健康保険診療施設協議会のホームページ(<http://www.kokushinkyo.or.jp/>)の、下部のバナーにおいて、小規模自治体向け多職種研修(運営ガイド・プログラム)の紹介画面につながります。

中には、多職種研修運営ガイド・プログラム開発までの取組み実績/先進的取組み地域の事例報告/多職種研修企画・運営に関する教材/多職種研修コーディネーターの育成の他、今回ご案内させていただきます多職種研修支援拠点施設整備に伴う「多職種研修企画・運営支援」を掲示しておりますので、ご覧いただくと幸いです。

また、現在、都道府県単位の「(都道府県)連携拠点施設」を整備中です。

- **北海道ブロック** (北海道内)
支援拠点施設:北海道・**本別町地域包括支援センター**
担当:所長 飯山(liyama)
TEL:0156-22-9222
E-mail:kyoten1_jnca@kokushinkyo.or.jp
- **東北ブロック** (青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県・新潟県)
支援拠点施設:秋田県・**市立大森病院**
担当:地域包括ケア連携室 村上(Murakami)
TEL:0182-26-2141
E-mail:kyoten2_jnca@kokushinkyo.or.jp
- **関東甲信静ブロック** (栃木県・群馬県・茨城県・埼玉県・東京都・千葉県・神奈川県・山梨県・長野県・静岡県)
支援拠点施設:静岡県・**浜松市国民健康保険佐久間病院**
担当:支援室 守下(Morishita)
TEL:053-965-0054
E-mail:kyoten3_jnca@kokushinkyo.or.jp
- **東海北陸ブロック** (富山県・石川県・福井県・岐阜県・三重県・愛知県)
支援拠点施設:岐阜県・**県北西部地域医療センター国保白鳥病院**
担当:事務局総務課 和田(Wada)
TEL:0575-82-3131 (内線3604)
E-mail:kyoten4_jnca@kokushinkyo.or.jp
- **近畿ブロック** (滋賀県・京都府・奈良県・大阪府・和歌山県・兵庫県)
支援拠点施設:滋賀県・**高島市民病院**
担当:リハビリ室 家守(Yamori)
TEL:0740-36-1147 (リハビリ室直通)
E-mail:kyoten5_jnca@kokushinkyo.or.jp
- **中国ブロック** (鳥取県・島根県・広島県・岡山県・山口県)
支援拠点施設:島根県・**飯南町立飯南病院**
担当:副院長 三上(Mikami)
TEL:0854-72-0221 (病院代表)
E-mail:kyoten6_jnca@kokushinkyo.or.jp
- **四国ブロック** (香川県・徳島県・愛媛県・高知県)
支援拠点施設:香川県・**三豊総合病院**
担当:三豊総合病院企業団わたつみ苑 篠原(shinohara)
TEL:0875-52-6605
E-mail:kyoten7_jnca@kokushinkyo.or.jp
- **九州ブロック** (福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県)
支援拠点施設:大分県・**国東市民病院**
担当:看護部長 平本(hiramoto)
TEL:0978-67-1211
E-mail:kyoten8_jnca@kokushinkyo.or.jp

◆相談方法

- **できる限り「E-mail」での問い合わせを優先していただけると幸いです。**
※各メールアドレスへの送信内容は、支援拠点施設と国診協本部で情報共有させていただきます。

地方厚生（支）局及び都道府県担当課へのご案内文書

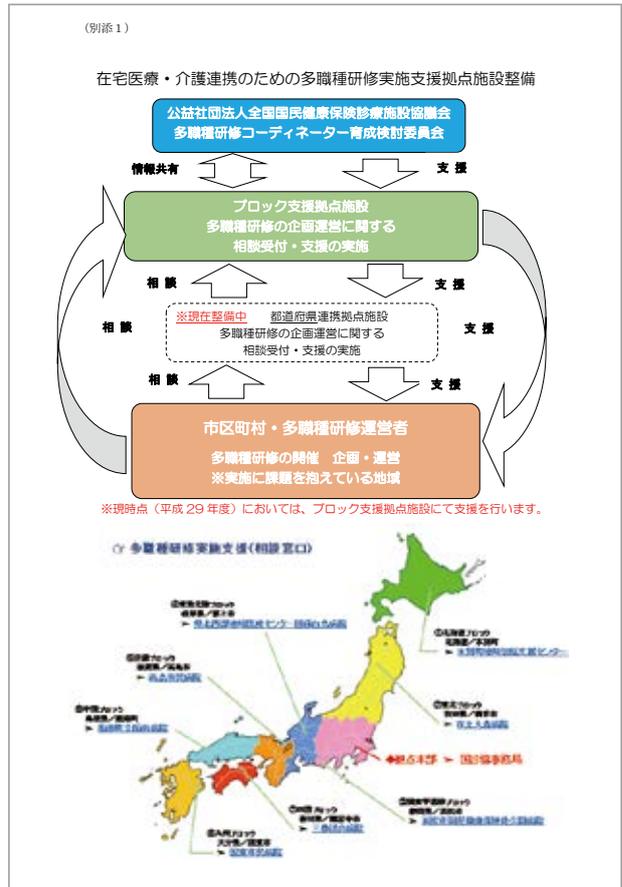
国診協発第 252 号
平成 30 年 1 月 18 日

都道府県介護保険主官部（局）
在宅医療介護連携推進担当者 各位

公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会
会長 押淵 徹
(公印省略)

在宅医療・介護連携のための多職種研修実施支援拠点施設整備並びに
支援開始についてお知らせ（周知依頼）

本会の事業運営につきましては、平素から格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
本会では、平成 29 年度独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業により「多職種
研修コーディネーター育成事業」を実施しております。
本事業では、別添のとおり、多職種研修の企画・運営のできる人材育成を行うとともに、
自治体（多職種研修運営者）支援のための支援拠点施設整備を行ってきました。
支援拠点施設整備においては、今年度は主にブロック単位での支援拠点施設整備を行っ
ており、次年度以降も継続して支援が可能となるよう、今後、都道府県単位でも連携拠点施
設の整備を進めることとしております。
現在、ブロック単位での支援拠点施設が整備され、稼働しておりますので、貴都道府県管
内の市町村において「多職種研修の企画・運営に悩んでいる」等、自治体担当者（多職種研
修運営者）からの相談等がありましたら、本支援体制があることを情報提供いただき、ご活
用いただくと幸いです。
また、今後、情報発信・情報収集を継続し、本事業の支援ネットワークを拡大していきた
いと存じますので、ご支援いただきますようお願い申し上げます。



- (多職種研修企画・運営：ブロック支援拠点施設一覧)
- 北海道ブロック（北海道内）
支援拠点施設：北海道・本別町地域包括支援センター
担当：所長 飯山 (Iiyama)
TEL：0156-22-9222
E-mail: kyoten1_jnca@kokushinkyoo.or.jp
- 東北ブロック（青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県・新潟県）
支援拠点施設：秋田県・市立大森病院
担当：地域包括ケア連携室 村上 (Murakami)
TEL：0182-26-2141
E-mail: kyoten2_jnca@kokushinkyoo.or.jp
- 関東甲信静ブロック（栃木県・群馬県・茨城県・埼玉県・東京都・千葉県・神奈川県・山梨県・長野県・静岡県）
支援拠点施設：静岡県・浜松市国民健康保険佐久間病院
担当：支援室 守下 (Morishita)
TEL：053-965-0054
E-mail: kyoten3_jnca@kokushinkyoo.or.jp
- 東海北陸ブロック（高山県・石川県・福井県・岐阜県・三重県・愛知県）
支援拠点施設：岐阜県・県北西部地域医療センター国保白鳥病院
担当：事務局総務課 和田 (Wada)
TEL：0575-82-3131 (内線 3604)
E-mail: kyoten4_jnca@kokushinkyoo.or.jp
- 近畿ブロック（滋賀県・京都府・奈良県・大阪府・和歌山県・兵庫県）
支援拠点施設：滋賀県・高市市民病院
担当：リハビリ室 家守 (Yamori)
TEL：0740-36-1147 (リハビリ室直通)
E-mail: kyoten5_jnca@kokushinkyoo.or.jp
- 中国ブロック（鳥取県・島根県・広島県・岡山県・山口県）
支援拠点施設：島根県・飯南町立飯南病院
担当：副院長 三上 (Mikami)
TEL：0854-72-0221 (病院代表)
E-mail: kyoten6_jnca@kokushinkyoo.or.jp
- 四国ブロック（香川県・徳島県・愛媛県・高知県）
支援拠点施設：香川県・三豊総合病院
担当：三豊総合病院企業団わかつみ苑 篠原 (shinohara)
TEL：0875-52-6605
E-mail: kyoten7_jnca@kokushinkyoo.or.jp
- 九州ブロック（福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県）
支援拠点施設：大分県・国東市民病院
担当：看護部長 平本 (hiramoto)
TEL：0978-67-1211
E-mail: kyoten8_jnca@kokushinkyoo.or.jp
- ◆相談方法
 ・できる限り「E-mail」での問い合わせを優先していただくと幸いです。
 ※各メールアドレスへの送信内容は、支援拠点施設と国診協本部で情報共有させていただきます。

(別添 2)

在宅医療・介護連携のための多職種研修の推進

全国国民健康保険診療施設協議会のホームページ
(<http://www.kokushinkyoo.or.jp/>) の、下部の
メニューにおいて、小規模自治体向け多職種研修
(運営ガイド・プログラム) の紹介画面につながります。
中には、多職種研修運営ガイド・プログラム開発
までの取組み実績／先進的取組み地域の事例報告
／多職種研修企画・運営に関する教材／多職種研
修コーディネーターの育成の他、今回ご案内さ
せていただきます多職種研修支援拠点施設整備に
伴う「多職種研修企画・運営支援」を提示しており
ますので、ご覧いただくと幸いです。

拡大

多職種研修運営に関する教材が掲載されています。

参考資料

「地域の実情に応じた在宅医療・介護連携を推進するための多職種連携プログラムによる調査研究事業 報告書」

URL:<http://www.fujitsu.com/jp/group/fri/report/elderly-health/2015chiikihoukatsucare.html>
(平成27年度厚生労働省老人保健健康増進等事業 富士通総研)

「地域の実情に応じた在宅医療・介護連携を推進するための多職種研修プログラムに関する調査研究事業 報告書」

URL:<http://www.kokushinkyo.or.jp/index/principalresearch/tabid/57/Default.aspx?itemid=278&dispmid=1547>
(平成27年度厚生労働省老人保健健康増進等事業 全国国民健康保険診療施設協議会)

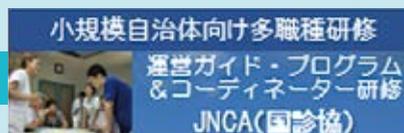
「地域の実情に応じた在宅医療・介護連携を推進するための小規模自治体向け多職種研修プログラムに関する調査研究事業 報告書」

URL:<http://www.kokushinkyo.or.jp/index/principalresearch/tabid/57/Default.aspx?itemid=309&dispmid=1547>
(平成28年度厚生労働省老人保健健康増進等事業 全国国民健康保険診療施設協議会)

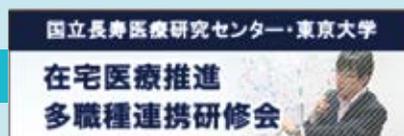
全国国民健康保険診療施設協議会のホームページ下部のバナーからアクセスできます。

➔ <https://www.kokushinkyo.or.jp/>

全国国民健康保険診療施設協議会



東京大学高齢社会総合研究機構

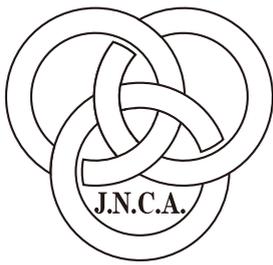


在宅医療推進のための地域における多職種連携研修

URL: <http://chcm.umin.jp/education/ipw/index.html>

(サイト 東京大学高齢社会総合研究機構在宅医療推進寄附プロジェクト)

※同サイトと国診協ホームページ関連サイトにおいて、相互リンクのバナーを設けております。



情報提供：広報活動

本事業結果及び今後の活動は、本会ホームページに公開しています。
関連資料等も集積していますので、ぜひご覧ください。

URL： <https://www.kokushinkyo.or.jp/index/principalresearch/tabid/480/Default.aspx>

独立行政法人福祉医療機構 平成29年度社会福祉振興助成事業
多職種研修コーディネーター育成事業 活動報告書



実施団体

公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会
Japan National Health Insurance Clinicians and Hospitals Association

〒105-0012 東京都港区芝大門2-6-6 VORT芝大門4階
ホームページ www.kokushinkyo.or.jp/

発行 平成30年3月